

# 紫塚同窓会報

第48号

発行者 池嶋英哲  
 発行日 令和5年12月15日  
 発行所 栃木県立大田原高等学校  
 紫塚同窓会  
 印刷所 川上印刷所

## 会長就任にあたって

同窓会会長 池嶋 英哲（高20回卒）



去る6月3日の同窓会総会におきまして、皆様からのご推挙をいただき、増淵前会長から大高の同窓会長を引き継ぐことになり身の引き締まる思いです。もとより浅学菲才の身でございますが、一所懸命に努める所存です。2020年に新型コロナウイルスが日本で確認され、その影響で、生徒達の活動もそれまで当たり前に行えていたものが中止という中で、友の顔もわからず、校歌さえ歌えず、精神的に苦しい状況が続いても大高生らしさを忘れず、文武両道に励み多くの成果を上げたことは、一卒業生として感激しております。同窓会の活動も、総会、常任理事会、十年会、霜月懇和会等々すべて中止、あるいは書面による承認など初めての経験ばかりでした。2023年5月に5類に移行したとはいえ、まだまだ不安な状況ではありますがようやく学校、同窓会の活動もコロナ以前に戻りつつあります。私の任期3年間は、コロナの間できなかった同窓会の常任理事を始め、役員若返りに力を入れたいと思っています。そのためにも次世代を担う、平成になってからの卒業生諸君に中心になってほしいと思い、キーパーソンを選任し人員のとりまとめをお願いしようと思っています。何人かの小さな集まりが大河となることを期待しています。今年の新入生は定員に足りませんでした。学区制の廃止により中央へ生徒が集中することの影響もあるかと思いますが、大高が入学したいと思えない学校になっているとは考えたくありません。大高には、那須の自然のもと質素堅実の精神で3年間体を鍛え、勉学に励み日本の将来を背負っていく人材を数多く輩出してほしい、そのためにも同窓会として物心両面の応援をしていきたいと思っています。ただし、無い袖は振れぬ例えもあります。大勢の同窓生のご協力をいただくため平成28年度の総会で「特別年度協力金」（一口2000円）を承認いただきました。同窓会関係の集まりや、専用の口座もございましてぜひよろしく願いいたします。

## 「さらなる飛躍を目指して」

栃木県立大田原高等学校長 君島 芳一



今年5月にコロナウイルス感染症が感染症法上の位置づけが第5類になったことで、この3年間課されてきた様々な行動制限が大幅に緩和され、社会では、様々な行事が制限なしで4年ぶりに開催されるなど、人々の行動は活性化され社会にも活気が戻ってきたことを実感しています。

本校においても、5月19日には4年ぶりに強歩を本来の距離に戻し85kmで実施しました。85km強歩復活を祈念しスタートしましたが、天候の悪化により、22kmでの途中中止となりました。3年生にとっては最初で最後の85kmチャレンジでしたので、途中中止の決定は忸怩たる思いでしたが生徒の安全を最優先に決断をしました。途中中止とはなりませんが、強歩実施にあたりましては、紫塚同窓会の皆様をはじめ、PTAの各支部の保護者の皆様や本校卒業生からなる医療団の皆様、地域の方々等、準備の段階から当日の運営まで、手厚く支えていただき誠にありがとうございました。参加した生徒も雨の中を歩きながら、「感謝」の思いを強くしたのではないかと思います。また、「協調」や「支え合い」といった心の成長を促す意味でも、今回の強歩は大変意義のあるものだと感じています。次年度の85km強歩の実施に向けて、今回の反省を生かしつつ、学校でもさらに「安全強歩」「85km強歩完全復活」に向けて検討を重ねて参りますので、より一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

そして、9月2日には「大高祭」を、人数制限なしで一般客をお迎えして実施いたしました。大高祭も本校の伝統行事であり、各クラス、文化部、有志団体等、生徒たちの活気ある行動と、創造性溢れるアイデアにより、今までの大高祭に引けをとらないものとなりました。来場者数は2,000名近くを数え、大変な盛り上がりを見せ、来場された地域の方々や保護者の皆様方からも好評を得ました。

大高らしい大きな行事の実施をとおして、学校行

事の大切さと、生徒たちの熱い思いを改めて感じることができました。行事のたびごとに、大高生らしい創造性を発揮し、ひとつのことに情熱を傾ける姿はまさに「質素堅実」の校訓が息づいていると感じることができました。

本校は明治 35 (1902) 年に創立し昨年 120 周年の節目を迎えました。明治、大正、昭和、平成、令和と年号が変わる中、激動の時代を乗り越え、社会に多くの有為な人材を輩出してきました。本校が開校以来、地域から信頼され、愛され続けている背景には、生徒、教職員、保護者の努力はもちろん、地域の方々のご支援、そして何より紫塚同窓会の皆様のご支援、ご協力を欠かすことはできません。特に、現在取り組んでいる SSH (スーパーサイエンスハイスクール) の活動においては、同窓生の方々なしには考えられないほど、お力添えをいただいております。本当に有難く、そして、頼もしい限りです。これからも 120 年の歴史と伝統の重みをかみしめながら、その歴史と伝統に甘えることなく、さらなる飛躍を遂げるため、教職員、生徒が一丸となって精進努力を重ねていきたいと考えています。今後とも、母校大高の発展と後輩の成長のために叱咤激励をいただければ幸いです。

最後になりましたが、平成 29 年 3 月 27 日に発生した那須雪崩事故に際しましては、事故発生当時から今日に至るまで、紫塚同窓会の皆様から物心両面に渡る様々なご支援を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。前任の植木淳校長在任中に、遺族と協議しながら、昨年は慰霊碑を建立することができ、今年は犠牲となった生徒、教員 8 名の名前が記された名碑を慰霊の碑の前に設置することができました。植木淳前校長に代わりまして改めてお礼申し上げます。今後も事故の教訓を忘れず、安全、安心な学校づくりを推進しながら、生徒一人一人のさらなる成長につなげていきたいと考えております。

## 2022・2023 事業報告

### 第 3 回 正副会長監事会

日 時：令和 5 (2023) 年 1 月 26 日 (木)  
会 場：大高会議室  
参加者：増淵会長以下役員

○常任理事会を前に懸案事項の打合せを行った。

### 常任理事会

(文責：副会長 伊藤和夫)

日 時：令和 5 (2023) 年 2 月 25 日 (土)  
18:00～

会 場：大田原温泉ホテル龍城苑

参加者：増淵会長以下役員 9 名、常任理事  
29 名、会員 1 名、植木校長以下学  
校職員 3 名

○議長は令和 4 年度十年会該当年次の高 34 回渡邊康成氏が務め、議事内容は令和 4 年度事業報告及び一般会計・特別会計中間報告、令和 5 年度事業計画 (案)・予算 (案)、役員改選 (案)、藤原奨学金 (案) について会長・副会長から示された。なお、昨年度の常任理事会は、コロナ感染症対応のため書面決議とした。

〈常任理事会出席年次〉

高 10 回・11 回・15 回・16 回・20 回・21 回・  
22 回・23 回・24 回・28 回・29 回・30 回・31 回・  
33 回・34 回・35 回・36 回・38 回・40 回・41 回・  
43 回・51 回・56 回・64 回

### 第 75 回 同窓会入会式

日 時：令和 5 (2023) 年 2 月 28 日 (火)

会 場：大高第 1 体育館

参加者：増淵会長



○本年度の卒業生は 197 名である。創設以来の卒業生は、旧制中学 (第 1～44 回) 時代に 3,806 名、併設中学校の第 1 回・第 2 回で 50 名、高等学校は普通科 (第 1 回～74 回) と商業科 (第 1 回～48 回) を併せて 21,920 名であり、それらの総数は 25,973 名にのぼる。

○同窓会長は式辞で紫塚同窓会への入会歓迎のこと

ばを述べ、続いて年次委員10名の委嘱を行った。年次委員を代表して、藤田励斗君(日新中)が同窓会入会の宣誓を行った。そして新しく同窓会会員となる卒業生全員に、同窓会入会の記念として卒業証書ホルダーを贈呈した。

- また、同窓会長より池田康成君(黒羽中出身)に紫塚奨学団賞が授与された。池田君は学業で優秀な成績を収めるとともに、部活動ではスーパーサイエンスクラブに所属し活躍した。本校OBである東京大学大学院農学生命科学研究科の溝口勝教授が福島県飯舘村で行っている農業再生の活動に参加し、放射線や土壌除染に関する知識を身につけ、農業の科学技術に関する理解を深め被災地復興の現状を学び視野を広げた。また、「物理チャレンジ2022」では全国から100名が選ばれる「第2チャレンジ」に進み、兵庫県で開催された3泊4日のコンテストに参加し奨励賞を受賞した。

造形大学教授)による記念講演があった。演題は「人生の難問を解くためにひたすら歩いた話」。



三木俊治氏(高46回)

- 午後は会場を那須野が原ハーモニーホールに移し、TEE東京演劇アンサンブルによる音楽劇「消えた海賊」を鑑賞した。

## 第121回創立記念式典

**日時:** 令和5(2023)年4月20日(木)  
**会場:** 大高体育館  
**参加者:** 増淵会長以下役員、生徒、教職員

- 今年度は創立記念日の4月19日ではなく、芸術鑑賞会の会場の都合により4月20日(木)の開催となった。在校生、教職員、同窓会役員が列席し、厳かな雰囲気の中第121回創立記念式典が挙行された。今回も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、2,3年生が体育館に入場し、1年生はホームルームにてズームによるリモート参加であった。



同窓会長として最後の参加となった増淵会長に君島校長より退任予定の増淵会長へ花束贈呈

- 式典後、三木俊治氏(高46回、彫刻家/元東京

## 監査

**日時:** 令和5(2023)年5月15日(月)  
**会場:** 大高小会議室  
**参加者:** 増淵会長、副会長(財務担当)、監事、職員

- 大橋保・大木聡監事が監査を実施する。

## 第1回正副会長監事会

**日時:** 令和5(2023)年4月21日(金)  
**会場:** 大高会議室  
**参加者:** 増淵会長以下役員、学校長等

- 総会進行、役割分担について検討する。

## 総会・懇親会

(文責:副会長 伊藤和夫)

**日時:** 令和5(2023)年6月3日(土)  
 午後5時~午後6時15分  
**会場:** 大田原温泉ホテル龍城苑  
**参加者:** 増淵会長以下役員、常任理事・理事・会員、君島校長以下担当教職員 計61名

- 増淵会長、君島校長からの挨拶、栄典者紹介があり、その後ご出席いただいたお二人の栄典者: 令和5年春の叙勲 大貫雄二様、森島堅二様からご挨拶をいただいた。

- 総会の議長は令和5年度十年会該当年次の高35

回渡辺和栄氏が務め、議事に入った。令和 4 年度事業報告、一般会計・特別会計決算報告、令和 5 年度事業案・予算案が原案通り承認された。なお、コロナ禍の令和 4 年度十年会中止に至る経緯と日光杉並木保護基金についての質問があり、各担当副会長が回答し了承を得た。

- 報告事項の中では第 121 回創立記念講演者、昨年度の創立 120 周年記念事業について事務局から報告された。
- 支部報告では、首都圏紫塚同窓東京会から桑原裕会長、宇都宮会から高久均事務局長からそれぞれ会の近況報告があった。
- なお、総会后に退任する増淵前会長への花束贈呈と退任のご挨拶をいただき、また池嶋新会長から新執行部を代表しての挨拶があった。

〈総会出席年次〉

高 9 回・10 回・11 回・14 回・16 回・20 回・21 回・22 回・23 回・24 回・25 回・26 回・28 回・29 回・30 回・31 回・32 回・35 回・37 回・38 回・40 回・43 回・45 回・47 回・51 回・53 回・55 回・56 回・64 回



ご出席なされた栄典者  
手前から大貫雄二氏、森島堅二氏



総会の様子

浅香法律事務所

弁護士 室井 淳男 (昭和 55 年卒)  
栃木県大田原市浅香 2 丁目 3390 番地 1  
TEL 0287-23-8203

弁護士法人エース

弁護士 室井 涼 (平成 25 年卒)  
東京都中央区銀座 6-3-9 銀座高松ビル 901  
TEL 03-6625-4140



ISO-9001・ISO-14001 認証取得

O.A.P.E. 総合設備業  
大橋総設工業株式会社

代表取締役 大橋 保 (高 29 回)  
常務取締役 大橋 知明 (高 59 回)  
〒324-0057 栃木県大田原市住吉町 2-4-24  
TEL 0287-23-3100 (代) FAX 0287-23-3102

税理士法人 荻原会計事務所

税理士 荻原 智光 (高 29 回)  
税理士 荻原 秀幸 (高 31 回)

〒324-0036 大田原市下石上 2109-3  
TEL 0287-29-0179 FAX 0287-29-1726



警備のことならお気軽にお電話ください。

北関東総合警備保障(株)

代表取締役会長 青木 勲 (高 9 回)  
常務取締役 高久 均 (高 22 回)

本社：宇都宮市不動前 1-3-14  
TEL：028-639-0300

車田 医院

車田 孝夫 (高 3 回卒)  
車田 宏之 (高 32 回卒)

栃木県大田原市大豆田 457-24  
TEL 0287-54-0062

お任せ/下さい!

**1日1組家族葬**

つむぎ大田原

(高 52 回)  
厚労省認定協会 1 級葬祭ディレクター  
代表 関口 将仁

【24 時間 365 日対応】 ☎ 0120-33-8817

◆◆令和4年度一般会計決算報告◆◆

○収入 【単位：円】

前年度繰越	5,130,722	繰越金
入会金	2,715,000	入会終身会費
寄付金	90,000	寄付金
雑収入	344,248	会報広告費・利息等
合計	8,279,970	

○支出

創立記念費	67,700	講師謝礼等
総会費	136,396	案内葉書等
十年会費	279,307	案内状郵送費等
霜月懇和会費	0	
広報費	739,809	印刷・郵送費
卒業褒賞補助	100,000	証書ホルダー代
母校活動補助	597,500	母校教育活動補助
支部会等補助	350,000	支部会への補助
慶弔費	71,110	祝金・香典等
餞別費	45,000	教職員への餞別
旅費	127,043	交通費
会議費	6,243	会議等経費
通信費	32,640	案内葉書等
消耗品費	2,288	消耗品費等
雑費	34,445	郵便振替手数料
予備費	0	
合計	2,589,481	

◆◆令和4年度特別会計決算報告◆◆

収入額	11,751,686	繰越金、利息、名簿売
支出額	0	
現在高	11,751,686	

◆◆日光杉並木保護基金◆◆

日光杉並木オーナー	10,000,000
-----------	------------

◆◆令和5年度事業計画◆◆

(前出の事業は除く)

10・1月 正副会長監事会  
 2月下旬 常任理事会  
 2月29日(木) 同窓会入会式(高75回)

◆◆令和5年度一般会計予算◆◆

○収入

前年度繰越	5,690,489	繰越金
入会金	1,970,000	入会終身会費
会費	10,000	会員終身会費
寄付金	10,000	寄付金
雑収入	300,000	会報広告費等
合計	7,980,489	

○支出

創立記念費	150,000	講師謝礼等
総会費	150,000	案内葉書等
十年会費	450,000	案内状郵送費等
霜月懇和会費	60,000	案内状郵送費等
広報費	800,000	印刷・郵送費
卒業褒賞補助	100,000	証書ホルダー代
母校活動補助	600,000	母校教育活動補助
支部会等補助	500,000	支部会への補助
慶弔費	130,000	祝金・香典等
餞別費	100,000	教職員への餞別
旅費	250,000	交通費
会議費	20,000	常任理事会経費
通信費	100,000	案内葉書等
消耗品費	20,000	消耗品費等
雑費	30,000	郵便振替手数料
予備費	4,520,489	
合計	7,980,489	

首都圏 紫塚同窓東京会

会長 桑原 裕 (高10回)

事務局 〒146-0085

東京都大田区久が原2-20-23 306今泉 薫方

携帯電話 090-4833-6873

URL <http://www.purple-tokyo.sakura.ne.jp/>

【新入会歓迎】 上記宛ご連絡ください。



医療法人社団 亮仁会

那須中央病院

同仁施設長	野崎治重 (高25回)	健診センター課長	桜岡邦彦 (高41回)
同仁苑課長補佐	大島 格 (高42回)	循環器内科部長	轟 正勝 (高43回)
整形外科部長	小島正博 (高45回)	歯科技工室主任	板橋広喜 (高46回)
理学療法士	郡司 優 (高61回)	診療情報管理士	遠山亮太 (高64回)
歯科技工士	渡辺育也 (高68回)	理学療法士	稲田有希 (高75回)

〒324-0036 栃木県大田原市下石上 1453 TEL 0287-29-2121 (代)  
<https://www.nasuchuoh-hospital.jp>

◆◆栄典者・功労者◆◆

令和 4 年度

○危険業務従事者叙勲

金子 一正氏 (高 32 回) 瑞宝単光章 坂主 亨氏 (高 28 回) 瑞宝単光章

○高齢者叙勲

熊田 剛氏 (高 5 回) 瑞宝双光章 本多 龍夫氏 (高 5 回) 瑞宝双光章  
前田 哲司氏 (高 5 回) 瑞宝双光章 白石 久夫氏 (高 5 回) 瑞宝双光章  
石田 敏夫氏 (高 6 回) 瑞宝双光章 青柳 學氏 (高 5 回) 瑞宝双光章

令和 5 年度

○春の叙勲

大貫 雄二氏 (高 23 回) 旭日小綬章 森島 堅二氏 (高 22 回) 瑞宝小綬章  
井上 敏和氏 (高 18 回) 瑞宝双光章

○危険業務従事者叙勲

手塚 榮光氏 (高 21 回) 瑞宝双光章 飯村 公一氏 (高 28 回) 瑞宝単光章  
近藤 芳久氏 (高 21 回) 瑞宝単光章

○高齢者叙勲

猪股 道則氏 (高 5 回) 瑞宝双光章 小山田行雄氏 (高 5 回) 瑞宝双光章  
益子 文彦氏 (高 6 回) 瑞宝双光章 矢板 賢榮氏 (高 6 回) 瑞宝双光章

◆◆令和 5 年度支部総会等◆◆

- 近畿紫塚会総会：10月21日(土) がんこ寿司 梅田本店
- 紫塚同窓東京会総会：11月11日(土) 品川プリンスホテル
- 那珂川町支部総会：11月11日 (土) 料亭みづ乃
- 紫塚同窓東京会役員会：7月22日(土) 品川プリンスホテル
- 県庁紫塚同窓会総会：10月27日(金) ニューみくら

総会・懇親会の様子



増淵会長退任挨拶



池嶋新会長挨拶



君島校長挨拶



神島副会長の音頭で乾杯



懇親会の様子

## 第2回正副会長監事会

日時：令和5(2023)年7月20日(木)  
会場：大高会議室  
参加者：池嶋会長以下役員、学校長等

○十年会の運営についての検討を行った

## 第3回正副会長監事会

日時：令和5(2023)年11月7日(火)  
会場：大高会議室  
参加者：池嶋会長以下役員、学校長等

○霜月懇話会の運営についての検討を行った

## 第70回十年会

日時：令和5(2023)年8月19日(土)  
会場：大田原温泉ホテル龍城苑  
参加者：高15,25,35,45,55,65回会員、恩師  
池嶋会長、学校長以下役員、教職員

- 新型コロナウイルスが第5類に引き下げられ、4年ぶりの十年会となった。恩師を含め総数95名での開催。コロナ以前より若干少ないのは未だ不安要素が感じられるせいか。しかし、懇親会ではそれぞれの思いを胸に大いに盛り上がった。
- 会場の時節柄、多数の宿泊客対応のために例年より遅い18時開会となり、その結果、全体会後の同期会の設定を無しにして実施した。
- 以下に参加者の感想文を掲載する。

## 最後の十年会

大場 浩一(高15回)

十年会はコロナ感染の影響で4年ぶりの開催。我々、高第15回生は卒業以来60年目。最後の十年会になった。

全体会と学年会が一緒になり、開催時間は18時。健康、時間や距離、家庭等の事情等もあり、参加者は少なく11名だった。

60年ぶりに会えた仲間もいた。名札を見ないと最初はわからなかったが、そのうちに学生時代に戻ることができ、懇親を深めることができた。

先生は、丸山忠先生以外は亡くなっていた。丸山先生も高齢のため欠席。先生からの手紙を皆さんに披露した。先生にとって大高は初任校、封建時代の気質が残っている学校で何事にも替えられぬ幸運だった、今回若かりし時を思い出すことができたと言っておられた。

大高の校舎で我々が在校時から残っているのは、体育館のみ。

60年でいろいろ変わった。

東野鉄道の廃線、大高前の通りが開通、正門の正面にあったニワウルシの大木もなくなっていた。商業科も閉科した。

一方で85キロ強歩等が始まり、新しい大高になりつつある。

今やITの時代。1日の情報量は、江戸時代の1年分とも言われている。世界を見ると紛争が起きている。

先が見えにくい不透明の時代だ。今まさに大高の校歌にある「質素堅実」に加えて、「独歩豊潤」の生活、「自由清新」の志が改めて求められている。

終わりに、会の開催にご尽力頂いた担当の先生方、同窓会の役員の皆様にお礼申し上げます。

## 50 年後の同窓会

今井 守夫 (高 25 回)

令和 5 年 8 月 19 日、コロナの 3 年のブランクを経て、久しぶりに十年会が大田原温泉にて行われました。出席者は全体で 93 名、高 25 回は 14 名の参加でした。例年の十年会と比べ、約半数の出席となってしまったのは残念ですが時節柄仕方のないこと、久しぶりに見る同級生の顔は見事に老け上がり、名乗らない限りわからない方もいました。本来は自己紹介などして 50 年の転機等を聞きたかったのですが、全体会ということでそういうこともなく解散したのが心残りではあります。次の十年会が最後となるので皆の健康を祈っております。また、50 年前の大高時代の恩師は一人も現れず、残念でした。

卒後 50 年の期間を経て、皆社会の第一線を退き、70 歳を目前にして私なりに思うことは、健康が大切であること、そして積極性とポジティブな考え方を持つことであります。50 年という期間は、表情と言葉にその人の性格を表します。健康で常に前向きに頑張っている人は、表情が明るく自信にあふれ、若々しい気がしました。我々年金世代の幸せは、仕事の有無を越えて“健康と生きがい”にありそうでした。最後に、母校の益々の発展と、我々同級生の十年後に一人も欠けることなく再会できることを祈念して報告を終えます。

## 高 35 回

稲村 竜一 (高 35 回)



令和 5 年 8 月 19 日、大田原温泉龍城苑に於いて、我々高 35 回卒を含めて十年会が催されました。

我々 4 回目となる十年会でしたが、ここ 3 年はコロナ禍ということもあり、開催を見あわせ 4 年ぶりの開催となったそうです。

以前は 8 月 15 日開催と固定されていましたが、昨今はお盆明けの土曜日開催となり、会場も変わりました。

残念ながら恩師の出席は叶いませんでしたが、いつの間やら一般的に定年と言われる年齢間近の出席者 15 名、遠方よりお越しの方も数名居り旧交を温めました。

今回、全体会のスタートも以前より遅く、私たちは年次会を設定しませんでした、それについては少々残念と思いますが、昨今の情勢を踏まえると仕方なかったとも思います。

短い時間でしたが、今の大高の様子も校長先生からの挨拶で知ることができ、そして 1 時間チョットと同級生たちと和気あいあいとしたタイムスリップしたような時間を過ごすことが出来ました、参加の皆様、ありがとうございました。

次回 10 年後の開催時には、年次会を設定し、益々皆で深く交流の場を持ちたいと思います。

最後に、5 月の第 1 回準備会に出席され、第 2 回準備会前、6 月に急逝された A 君のご冥福を祈ります。

## 高 45 回

齊藤 誠之 (高 45 回)

コロナ禍の影響で開催できなかった「十年会」が 4 年ぶりに開催されました、

池嶋同窓会長からの挨拶、君島校長先生からの学校の現況報告では、後輩たちの活躍を知ることができ、恩師の紹介後、大場浩一先輩の乾杯の発声で懇親会がスタートしました。

全体的に参加者は少なく、当時の恩師は欠席で残念でしたが、県内外に住む同級生とは 10 年ぶりの再会ができました。

卒業してから 30 年が経ちましたが、当時の話はもちろん、しばらく会っていない友人の話や社会情勢についての話、そして学校の校長先生になった友人とは教育について語りあうなど、この 10 年の間、各地で活躍している皆の話を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごせました。

最後は忘れかけていた校歌を思いだしながら、全員で合唱し、万歳三唱をして閉会となりました。また、皆との 10 年後の再会とさらなる活躍を楽しみにしています。

結びに、設営にあたられた同窓会役員の諸先輩方に感謝を申し上げます。

## 高 55 回同期会

白井 克友 (高 55 回)

今回初めて十年会に参加しましたが、とても充実した会合で、2 時間という時間はあっという間に過ぎてしまいました。

ほとんどの人と卒業後 20 年ぶりの再会であり、皆すっかり少年から中年になっていました。しかし、



話をしているうちに、20年前の面影が甦り、当時に戻ったかのように会話が弾みました。

また、当時は部活の話や遊びの話が中心でしたが、今では専ら仕事の話、子育ての話、健康の話で、そういったところからも歳をとったなど実感しました。

今回神島先生、長嶋先生、大貫先生、高橋先生の4人の恩師にも参加いただきました。恩師たちは多少顔のシワは増えていましたが、若々しく、授業を受けているような感覚でとても懐かしくなりました。

分野は違えど、活躍する皆の話を聞いたことで、自分も負けてられないなど言う気持ちになりました。

健康には十分配慮し、元気な姿で次回の十年会でまた会いましょう。

### 高65回

英 祐輝 (高65回卒)

大高を卒業して10年が経過し、初めての十年会に出席しました。当日は10名の懐かしい顔ぶれと再会することができ、お互いの近況を語らう時間となりました。恩師としてご出席された高村徳子先

生、鈴木長生先生、飯田径夫先生には、英語、化学をそれぞれご指導いただき、また、当時の進路の悩みについて熱心にご相談に乗っていただきました。お酒を片手に在学当時の思い出話や今のお仕事などの報告で盛り上がることができ、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

二次会は近くの居酒屋に移動し、同期だけの肩肘張らない雰囲気でも盛り上がりました。20代後半でようやく仕事にも慣れ、家庭を持つ友人もおり、地元で市役所や教育現場に勤めて地域に貢献している友人や、都市部で頑張っている友人の話を聞くことができ、私自身非常に良い刺激となりました。次回十年会を開催する頃には、家庭や仕事の責任が増えている年齢だと思いますが、さらに参加者が増えることを願っています。

最後に、ご多忙の中、開催にあたりご尽力いただきました、同窓会役員・諸先生方・準備委員の皆様、当日ご出席下さいました恩師の先生方、各年次会員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



池嶋会長挨拶



君島校長挨拶



恩師代表挨拶  
神島仁誓先生



乾杯の音頭  
大場 浩一氏 (高15回)



右より  
恩師の方々  
〔敬称略〕  
飯田径夫 (65回恩師)  
鈴木長生 (65回恩師)  
高村徳子 (65回恩師)  
高橋伸輔 (65回恩師)  
大貫 晋 (55回恩師)  
長嶋和彦 (55回恩師)  
神島仁誓 (55回恩師)

医療法人 大田原厚生会

# 室井病院

理事長 室井 尚武

〒324-0042  
栃木県大田原市末広 1-2-5  
TEL 0287-23-6622 FAX 0287-23-7825

株式会社 万建設興業

代表取締役 渡邊将宏 (高45回)

Construction  
Real Estate Development  
Architectural Design

那須塩原本社 〒329-2726 栃木県那須塩原市扇町 10-1  
TEL 0287-36-0075 FAX 0287-36-1138  
<https://www.yorozukensetsu.co.jp/>



懇親会 各テーブルの様子



全員で校歌斉唱

万歳三唱 音頭：松本 光正氏（高 25 回）



## 各支部の活動

### 宇都宮紫塚同窓会四方山話

ここ数年、新型コロナウイルスの蔓延により社会生活が一変し、様々な活動が大幅に制限されました。宇都宮紫塚同窓会（青木勲会長、高9回）も例外ではなく、ここ4年間は総会や懇親会を開くことができず、会員の皆さんと歓談する機会も失われてしまいました。活動できない会ほど歯がゆいものはありませんが、ちょうどその時大高健児の伝統行事85キロ競歩を実施するというニュースが飛び込んできたのです。



現役大高生がコロナ禍にもめげず、自分たちの思いを背負って那須野が原の大地を踏みしめながら行軍する、この強い姿勢に会長は久しぶりに感銘を受けたようです。早速、宇都宮紫塚同窓会として激励してやることになりました。

会長は、自身も高校時代には柔道部員として国体選手に選ばれたこともあって大田原高校には人一倍強い愛着を持っています。

こうした中で昨年は、ちょうど大田原高等学校創立120周年の節目の年で、式典に出席したこともあり、たまたま次代を担う大高卒業生向けの育英資金が厳しい現状にあることを知ったのです。

会長は、宇都宮紫塚同窓会とは別に、個人的にも大田原高校のためにお役に立ちたいと考え、すかさず動き出しました。大高健児のための奨学資金の貸与・給付事業を行っている公益財団法人紫塚奨学団に、創立120周年に合わせてポンと120万円を寄贈したのです。

この手続きが済んだ後、会長は、「これによって一人でも多くの有能な人材が育ってくれば本望だ。」とつぶやいておりました。

（文責 高久 均 高22回）

## 栃木県庁紫塚同窓会

会長（栃木県環境森林部参事兼県西環境森林事務所長）  
佐藤 健之（高34回）

県庁紫塚同窓会は、大田原高校出身の県庁職員、約240名で構成しており、庁内でも大規模な同窓会の一つとなっています。

これまで毎年、県庁紫塚同窓会総会を開催して参りましたが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を見合わせておりました。しかし、令和4年度においては、感染の状況に一定の落ち着きが見られたことから、令和4年12月13日、宇都宮市のニューみくらにおいて、3年ぶりに県庁紫塚同窓会総会を、大田原女子高出身者との交流会と兼ねて開催いたしました。

開催直前に新型コロナウイルス感染症の感染者が再び増加したため、総勢28名と若干少ない人数の参加となってしまいましたが、植木大田原高校長をはじめ、丸茂大田原女子高長、後藤紫塚同窓会副会長、更には県議会議員の方々など来賓の御参加をいただき、大田原高校、大田原女子高の活動報告のあと、参加者一人ひとりの自己紹介を兼ねたあいさつを行うなど交流を深め、大いに盛り上がりました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからはじめてとなる令和5年度の総会につきましては、コロナ前のように盛大に開催し、会員の交流を深めて参りたいと思います。



### 葬儀・法要

## 八州会館

代表 吉光寺 政雄（高49回）

〒325-0023

栃木県那須塩原市豊浦12-138 TEL 0120-948-943

介護用品のレンタル・販売

■処方せん調剤 ■介護用品全般 保険調剤薬局

松本 寿広（高20回）

松本 隆史（高45回）

松本 智史（高48回）

**(株)まつや薬局**

クスリのご相談、介護のご相談お気軽にどうぞ

TEL 0287-22-2502 (代)

大田原市城山1-5-31 FAX0287-22-2501

大田原市中央1-3-15 TEL0287-47-6167 (トコトコ大田原内)

大田原市中田原773-9 TEL0287-47-4152

### 近畿紫塚会

令和 4 年 10 月 29 日に 3 年ぶりに第 85 回目の総会（同窓会）をホテルビナリオ嵯峨嵐山に於いて、開催しました。栃木からは、植木校長先生、池嶋副会長（当時）にご出席いただきました。しかし、参加者は、16 名とさみしいもので、毎年総会を開催してきましたが、コロナ禍の中、2 回開催を見送ったことが影響しました。近畿紫塚会は、千草会関西支部（大田原女子高校同窓会）と合同で同窓会を開催しております。同窓会活動での悩みは、会員の高齢化と会員数の減少による活動の縮小で、先輩からは、例え一人になっても、同窓会を継続するようと言われております。ソーシャルネットワークサービス（SNS）を活用した宣伝などで、同窓会への参加者を増やす試みも行っております。お知り合いの方で関西に在住の方がいらっしゃる方は、その方に近畿紫塚会の活動をご紹介していただき、是非、会員となって、同窓会活動を盛り上げてくださることを願います。



### 首都圏 紫塚同窓東京会活動報告

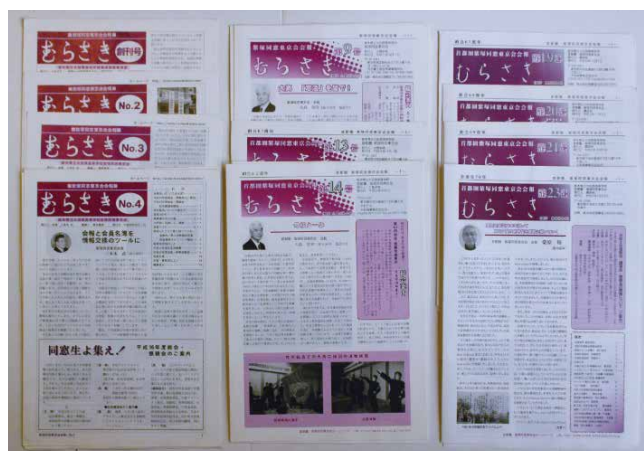
首都圏紫塚同窓東京会会長  
桑原 裕（高 10 回）

コロナ禍、ウクライナ侵攻、猛暑、線状降水帯、円安、どれも私たちの生活を脅かすものであるということ以外に言いようもないことですが、これらの困難に振り回された一年が矢の如く早く過ぎ去ってしまう感じです。こうした昨今ですが、東京会は、何とか安定した運営に戻たく、できることから一步一步復活してまいりました。今年令和 5 年は、東京会発会 70 年、記念すべき年になりました。

昨年度（令和 4 年度）の総会は、令和 4 年 11 月 11 日（土）、3 年ぶりにフェイス・トゥ・フェイスで実行できたこと、何よりでした。伊藤本部副会長

さん（当時）、植木母校校長先生（当時）にご来駕を頂き励ましのお言葉を頂きました。渡辺那須塩原市長さん、大田原市役所の方々からも郷土の話題をお聞きしました。記念の講演には、高野淑識会員（平成 6 年卒）の講話を拝聴し、感動ひとしお。宇宙の話でしたが、人生論にまで至り、素晴らしい講和でした。感染防止ゆえ、流れる校歌に心で歌って会を閉じました。69 名出席。令和 5 年 3 月には執行役員会を開き、5 月 19 日（金）には、いよいよゴルフ再開。16 名参加。7 月 22 日（土）には、夏の役員会・懇親会を開催。本部池嶋英哲新会長様、大高からは、鈴木長生教頭様ほかの先生方にご臨席いただき、本部のこと、母校のことをお聞きし、特に、全国高等学校野球選手権記念大会栃木大会開会式で、「栄冠はきみに輝く」を独唱した小泉謙晶君の晴れ姿を映像で拝観。改めて感動した次第です。会報『むらさき』も第 23 号まで刊行できました。会長様、校長様の励ましのお言葉も毎回いただいております。

10 月 1 日には、大田原女子高等学校同窓会千草会東京支部の総会に招待され、4 名の副会長が来賓で出席しました。胸奥に秘めた昔日の思いを脳裏に描きながら友好を深めました。



東京会会報『むらさき』  
創刊号から最近号 23 号まで



夏の役員会・懇親会 2023・7・22 東京港区で  
左から 2 番目は、本部同窓会池嶋会長

## 母校の近況

### 寒稽古

日時：令和5(2023)年1月17日(火)  
～20日(金)

○当初、1月16日(月)から始める予定であったが、当日、朝雨のため急遽中止になり、17日(火)から20日(金)までの4日間、朝6時半から7時20分まで学年ごとにスタート地点を変え1周1キロの校内に設けられたコースを7周した。参加者数は日によって変動したが、全生徒597名のうち、毎日300名以上の生徒が参加した。初日(17日)には下野新聞、栃木テレビの取材を受けた。体育の授業では12月から長距離走の練習をして寒稽古に備えた。武道(柔道、剣道、弓道)は新型コロナウイルスの影響により、今年の実施しなかった。



### 令和4年度卒業式

日時：令和5(2023)年3月1日(水)  
会場：大高第一体育館

○3月1日、高校第75回卒業式が挙行され、197名の卒業生が紫塚の学び舎を巣立っていった。卒業証書受領総代は、東北大学に進学した磯良翼君(若草中)が務めた。

○答辞は、生徒会長をつとめた後藤悠士君(若草中)

であった。答辞の中で「中学校卒業直前から始まった休校が大学高校入学後も続き、家での長い時間が過ぎることになりました。授業が始まって、多くの行事はコロナ禍の中で大きな影響を受けました。そのような状況でも、記憶に残る素晴らしい経験がありました。一昨年12月、他校が新型コロナ禍で修学旅行を次々に中止する中、幸運にも私たちは沖縄へ行く機会が与えられ、平和について深く考える機会がありました。5月には、3年ぶりに復活した85キロの強歩が35キロに縮小されましたが、友人たちと励ましあいながら歩くことができました。夏休み明けの大高祭では、人数制限がある中で、多くの人々に楽しんでいただきたく、趣向を凝らした出し物を披露しました。そして、今年の1月には、夜明け前に家を出て、友人とともに白い息を吐きながら7キロの道を走りました。これに加えて、10月には創立120周年の記念式典が行われ、三代表彰や天体望遠鏡の披露などの記念事業が実施されました。大高がSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受けていることも特筆すべきです。私たちはさまざまな課題に取り組み、社会の課題に真摯に向き合うきっかけとなりました。先生方の指導を受けながら切磋琢磨し、自己理解を深め、進路を見据えてきました。これらの3年間で、私たちは社会での自己実現のための「努力の型」を築いてきました。これからの道は容易ではないかもしれませんが、大高で培った「努力の型」を最大限に発揮し、新しい時代を切り拓いていく覚悟です。」(要約)と述べた。



## 令和 5 年度入学式

日 時：令和 5 (2023) 年 4 月 7 日 (金)  
会 場：大高第一体育館

○ 4 月 7 日、高校第 78 回入学式が行われた。新入生は期待と不安の入り交じった表情であったが、担任の呼名に元気よく大きな声で返事をし、起立した。そして全員呼名後、校長から新入生 175 名の入学が認められた。代表宣誓は橋本創君（若草中）であった。



## 第 35 回 85 キロ強歩

日 時：令和 5 (2023) 年 5 月 19 日 (金)

○ 5 月 18 日から 85 キロ強歩を実施予定であったが 33 度から 34 度というあまりの高温が予想され、熱中症の危険が高かったため、翌日の 19 日に延期。晴れ間は覗いていたが曇り空の中、生徒 553 名がゴールを目指しスタートした。しかし矢板市農村環境改善センターを過ぎた頃から雨が降り出し、最初は小ぶりであったが、次第に大ぶりになった。気温も低下し、雷の予報もあり、矢板市郷土資料館に到達した段階で、これ以上前進できない決定がなされ、施設の体育館に集まっていた生徒に途中中止が伝えられた。大高から 22 キロ地点である。生徒はそこから道の駅湯の香しお

ばらまでバスで輸送された。4 台のバスで何回も往復。最後の生徒が道の駅に着いたのは 21 時 30 分ごろであった。生徒は道の駅で夕食を受け取り、迎えの保護者により帰路についた。

仲間とともに

3 年 湯原 元気

私は、大高で一番楽しみにしていたことは、大高の一番の行事といっても過言ではない 85 キロ強歩でした。高校に入ろうと思ったきっかけもこの 85 キロ強歩をやりたいというのが大きかったです。しかし、一年生の時は、コロナの影響で中止、二年生の時は、同じくコロナの影響で実際の距離の半分も満たない 35 キロでの実施となりました。三年生になった今年はついに 85 キロでの実施となり、ようやく例年通りの形で先輩方と同じ体験ができることに気持ちが高ぶりました。

いよいよ強歩当日の朝、「絶対完歩してやる」という思いを胸に大高から出発しました。歩いているうちに「疲れた」という気持ちが出てきて心配になりましたが、先輩も同じ道を歩き切ったと思えば、全く辛く感じることなく、ともに歩いているクラスメイトや部活仲間のことを考えれば、なおさらやる気が出てきました。途中、部活の仲間の一人が腹痛を訴えた時、メンバー皆でスピードを合わせ、励ましながら一緒に歩けたのは良い思い出になりました。

しかし、その後雨で中止になってしまい、三年間一度も 85 キロを歩けなかったことは非常に残念でした。けれども、仲間と一緒に長距離を歩くというほかの学校ではできない経験ができてよかったです。将来は友人とこの話で盛り上げられることを祈っています。





大高祭を経験して

大高祭実行委員長 渡辺 碧

今年の大高祭は昨年よりも多くの方に来場いただきました。その理由として、今年はコロナの入場制限がなくなったこと、食品販売が再開したこと、万歳同盟の復活があると思います。

来場者が多くなったことで、学校全体が盛り上がり、思い出に残る素晴らしい大高祭にすることができました。

普段勉強に追われている私たちですが、しばし授業から離れ、男子校ならではの熱気ムンムンな中で、我を忘れ一丸となって大高祭を盛り上げる特別な時間になりました。

最後の閉会式で、創立121周年にちなんで、全員で21回の万歳をしたことは今でも忘れられません。

大高祭が実施できたのも保護者の皆さんや先生方、地域の方々の協力があったからです。ありがとうございました。

来年もよりよい大高祭になることを願っています。



第56回大高祭

日時：令和5(2023)年9月2日(土)

○9月2日(土)に第56回大高祭の一般公開が行われた。新型コロナウイルス感染予防のため、昨年は人数を制限して行ったが、今年は制限なしで、従来の形で行われた。この日は9:30から15:00まで公開が行われ、来場者数は1803名。駐車場の誘導も大変であった。コロナの規制もなくなり食品販売や万歳同盟、ウォーターボーイズが復活し、コロナ以前の賑わいを見せた。最後の第1体育館での閉会式では、全員で万歳三唱を行い盛会であった。

SSH事業

【スーパーサイエンス・ハイスクール】

○令和元年度より5年間、文科省のSSH(スーパーサイエンス・ハイスクール)事業の指定校になった。SSH事業は、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的能力や、科学的思考力等を培うことで、将来社会を牽引する、科学技術を有した人材を育成するための取り組みである。本校の計画している事業の内容とSSC生徒の令和5年度SSH生徒研究発表会のポスター発表原稿を次に示す。

SSH(スーパーサイエンス・ハイスクール)事業

(1) 研究開発課題名:

志と科学的リテラシーを育む文理融合型課題研究の開発 -Inspiration through Perspiration-

(2) 研究目標:

社会構造の急速な変革が進展する中、社会の持続的な成長と発展への志を持ち、国内外を問わず科学技術分野で新しい価値を創造・発信できる人材を育成する。

(3) 研究開発の概要:

- ①「社会問題啓発プログラム」を通じ、社会への興味・関心を高め、志の萌芽を誘う。
- ②「課題研究プログラム」を通じ、論理的思考力と科学的リテラシーを育成する。
- ③「ICT活用能力育成プログラム」により表現技法・情報発信能力を養う。
- ④SSH事業全体のPDCA化と評価法の開発により、事業の改善に努める。

(4) 具体的な取り組みの概要

- 1学年前半はSS探究(総合的な探究の時間)やLHR等の授業を通して、「社会問題啓発プログラム」に取り組む。1学年後半から、班ごとに関心のある研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。2学年から課題研究に取り組む。この発表会は他校の指導者や保護者、有識者などにも公開する。
- 希望者は科学関連施設や大学等の見学会に参加できる。
- 理工学及び語学に関する部活動(SSC自然科学班、SSC情報班、SSC天文班、英語部など)を充実させる。

建築家からの提案  
「人と環境にやさしい建物」

**有限会社 和泉設計**

代表取締役 和泉卓哉(高22回)

〒329-2703  
栃木県那須塩原市槻沢 322-9  
TEL 0287-37-4871  
FAX 0287-37-4872  
<http://www.izumi-architects.com/>

**宇都宮紫塚同窓会**

会長 青木 勲(高9回)

事務局 〒320-0833  
宇都宮市不動前 1-3-14  
北関東総合警備保障(株)内  
TEL:028-639-0300  
FAX:028-639-0397

**近畿紫塚会**

会長 松木守夫(高20回)

事務局 〒593-8328  
大阪府堺市西区鳳北町6-335-2  
森 重恭(高34回)  
TEL090-4293-7361  
x-l:l:mppi43552@maia.eonet.ne.jp

各種自動車販売・民間車検・石油類販売

**(有)小浦モータース**

小浦 道夫(高27回)  
小浦 敏夫(高31回)

本社 大田原市佐久山 2208  
佐久山SS TEL 0287-28-0016  
実取SS TEL 0287-28-0480  
車検センター TEL 0287-36-5338

宗 教 法 人

**大田山光真寺**

住 職 黒田 泰弘(高35回)

〒324-0051  
栃木県大田原市山の手 2-11-14  
TEL 0287-2 2-2 0 3 3



**小林内科外科医院**


小林 伸久(高33回)

〒324-0028  
大田原市富士見 1-1606-265  
TEL 0287-23-8870

郷土と母校の発展に書籍で貢献  
本を通じて自由と幸せをお届けします!!

**有限会社 自由書房**

代表取締役  
大出 博友(高48回)



〒324-0051  
栃木県大田原市山の手1-2-32  
TEL 0287-22-2523  
FAX 0287-23-8333



ビジネスホテルアジサイ  
BUSINESS HOTEL AJISAI

**株式会社 関商事**

代表取締役 関 幸一(高22回)

〒329-2763  
栃木県那須塩原市井口 532-7  
TEL 0287-36-8181 FAX 0287-36-4141

**(有)ナルミヤスポーツ**

成宮 正人(高44回)

栃木県大田原市中央 2-16-15  
TEL 0287-23-6668  
FAX 0287-23-6437



# 和楽池からエネルギーをつくる

3106 栃木県立大田原高等学校 SSC自然科学班  
 小川 真之介 高久 文也 中林 航大 沼尾 俐玖 樋口 隼 横尾 健

## 背景

近年、地球温暖化が更に進み、その要因の1つである温室効果ガスの削減が課題となっている。特に現在の日本においては全体の発電量のうち温室効果ガスの1つである二酸化炭素を多く排出する火力発電による発電の占める割合が多く、将来的なエネルギー構成をどのようにするべきか検討が必要である。そこで、身近にある自然の中にエネルギーとして活用できる物質があるか調べることにした。校内の人工池には例年落ち葉などが多く堆積しており、池底に沈んだ植物が菌や微生物によって泥などに分解される過程でメタンガスが発生しているのではないかと考えた。

pH	8.0
COD	4.0~6.0mg/L
アンモニウム	0.50~1.0mg/L
硝酸イオン	10.0~20.0mg/L
溶存酸素量(表層)	4.5mg/L
溶存酸素量(水底)	3.8mg/L



表2 和楽池のデータ

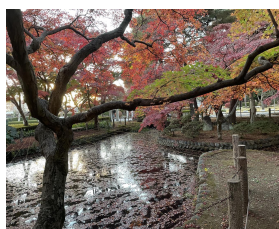
図3 メタンガス採取の様子

## 仮説

### 和楽池からメタンガスが発生している

## 和楽池とは

和楽池は大田原高校敷地内にある人工のため池である。この池は土壁をつくるために土を掘った後にコンクリートで内部を舗装し、できたものである。この池の水は地下水を引くことで賄われている。そしてこの池には2011年東日本大震災によって亀裂が発生していることが先輩方の調査によって分かった。



面積 33.03㎡ (1989 大田原高調べ)  
 図1 和楽池の様子(秋)

## 実験②

平成理研株式会社様にご協力いただき、採取した気体の成分を調査した。その後、気体に着火し、燃焼するかどうか調べた。

メーカー	(株)島津製作所
使用機器	GC--2014
検出器	FID検出器
使用カラム	G300
カラム温度	60°C
注入口温度	130°C
検出器温度	150°C



表3 ガスクロマトグラフの測定条件

図4 平成理研株式会社様に訪問した際の様子

## 研究手法

- ①和楽池の水質データ測定と気体の採取を行う。
- ②上記の気体をガスクロマトグラフを用いて調査し、運用方法を模索する。
- ③池の水と堆積物を容器に移し気体が発生するか調査する。

## 実験①

水質データは共立理化学研究所のバックテストを用いて調査した。種類は硝酸、COD、アンモニウムの計測を行った。気体の採取方法は和楽池に胴長を着用し池に入り、池の中を踏み歩き池底に刺激を与える。すると池底に溜まったガスが泡となって水面に浮上するため、それをビニール袋で採取する。その後、シリンジでガスを吸引し専用の袋(テドラーバック)に移した。

成分	型式
硝酸	WAK-NO3
COD	WAK-COD(D)-2
アンモニウム	WAK-NH4-4

表1 バックテストの型式

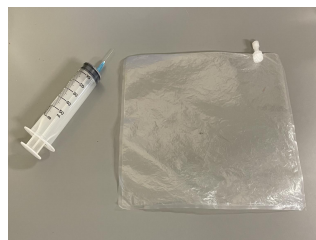


図2 シリンジ(左)とテドラーバック(右)

## 結果①

CODの値は4.0~6.0mg/Lであり環境省の基準(※1)では「B類型またはC類型」であり、少し汚れている部類であった。

最初の気体回収では回収中の気体が漏れてしまい、非効率的であったが、何回かの気体回収で従来よりも効率的に気体を採取できるようになった。気体も採取間のおよそ2カ月で回復していたため、定期的かつ安定的に気体を採取することができた。

## 結果②

### 採取した気体にはメタンガスが含まれており、46.9%の濃度であった

これは通常の測定では観測できない濃度である。燃焼実験では一瞬ではあるが大きく燃焼した。また、2023年5月の気体採取では12分で2100mlの気体を採取することができた。気体を採取する場所や和楽池での動きなどで若干の発生量の変化はあるが1分間で175ml採取可能であることが分かった。

## 実験③

気体の発生源を調査するため、池の水や池底の沈殿物を容器に移して約3カ月設置し、気体が発生するか調べた。容器内の水面には空気が入らないようラップで密閉し、水面とラップの間に発生した気体を回収した。なお、予備実験の結果、日向に比べて日陰に設置した方が、若干ではあるが多くの気体が発生したため、この実験では容器を日陰に放置した。

## 結果③

放置した容器からは気泡となって気体が発生していた。回収した気体で実験②と同様の燃焼実験を行ったところ、和楽池から発生した気体の炎と同程度の規模の燃焼をした。故に、和楽池から発生している気体(メタンガス)は池にある亀裂からではなく堆積物から気体が発生していることが明らかとなった。



図5 メタンの燃焼実験の様子 図6 バケツでのメタンガス発生の様子

日付	天気	気温(°C)		平均気温(°C)	採取時の平均気温(°C)	水温(°C)	気圧(hPa)	気体に占めるメタンガスの濃度(%)
		最高気温	最低気温					
2023年2月1日	晴れ	9.1	-8.1	0.8	7.9(16時頃)	9.0	994	34.4%
2023年5月11日	晴れ	22.0	8.0	14.9	16.9(17時頃)	14.5	1018	46.9%

気象庁のデータ、tenki.jpより

表5 採取日の気象条件

### 考察① 気体回収方法の改善

気体の回収方法はまだ改良の余地があり、採取の自動化などもっと回収を効率化できそうである。また、時間経過で気体が回復したので、池の環境下では、気体が自然発生していると考えられる。そのため、池と同じような環境を模倣すれば気体を人工的に作り出すことが可能である。

### 考察② 和楽池の水質

水質調査の結果、pHは8.0であり弱塩基性であった。前述のとおり、和楽池は地下水を汲み上げることによって水位を保っている。涌井・山中(2006)(※2)によれば、大田原市のある那須地域(那須野が原)は地下水面が非常に低い。それ故、地下水が地表に表出するまでには長い時間がかかる。また、「地下水に含まれる二酸化炭素は砂礫と接触してナトリウムイオン等のアルカリ成分を溶かし出し、炭酸水素イオンに変化して塩基性を示すことがある(※3)」ため、長い時間をかけて地下水のpHが弱塩基性に変化したと考えられる。

### 考察③ 回収した気体の濃度変化

回収した気体におけるメタンガスの濃度は1回目5.75%、2回目34.4%、3回目46.9%と上昇した。要因として、1回目では最初の気体回収で採取の不備があったが、2回目以降の採取でニードルを用いてテドラパックに気体を移す際に漏れ出さないようにするなどの採取の改善を行ったことがあげられる。また、改善後同様の方法で気体を採取した2、3回目の気象条件を比較すると、気温と気圧が大きく変化していることがわかる。温度変化については、木村・梅津・高畑(1998)(※4)に示されているように、気温上昇の結果として和楽池内部の微生物による有機物分解が盛んになった結果、回収したメタンガスの濃度が上昇したと考えられる。また、気圧変化については、本実験が、外的要因(足踏みによる刺激)を加え、その結果として排出される堆積物内のメタンガスを回収していることから、堆積物内に存在しているメタンガスの量が重要となる。常田・宮崎・溝口(2006)(※5)による、気圧が低いほど泥炭地からのメタンバブルの大気への放出量が増加するという報告から、気圧が上昇した3回目の採取日の方が、大気中に放出したメタンガスの量が少なく、堆積物内に存在するメタンガスの量が増加したため、回収したメタンガスの濃度が上昇したと考えられる。ただし、気温と気圧が回収したメタンガスの濃度にそれぞれの程度影響を与えたかは不明瞭であり、今後の研究を進めていく必要がある。

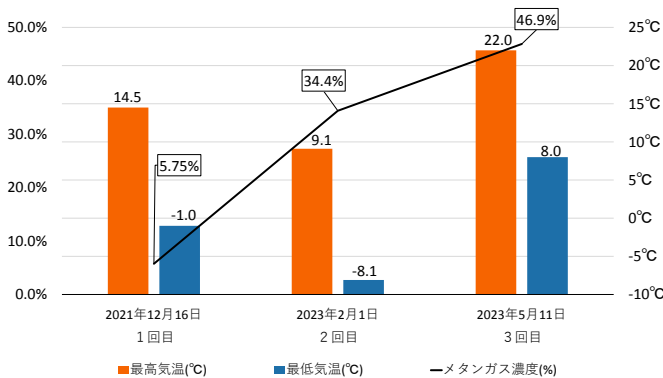


表4 メタン計測の結果

### 考察④ エネルギーとしての利用

結果②から、池からはメタンガスが発生しており、かつ燃焼も可能なレベルの濃度であることが分かった。したがって、この気体はエネルギーとしての利用が可能であると思われる。

### 考察⑤ 地球温暖化への影響

メタンガスは二酸化炭素の温室効果の10~20倍と言われている。メタンガスの燃焼により二酸化炭素は発生するが、温室効果を10分の1~20分の1にすることができると考えられる。

### まとめ

今回の実験で和楽池ではメタンガスが発生しており、燃焼実験を行ったところ、一瞬ではあるが、大きく燃焼した。また、この気体は実験③の結果、和楽池の堆積物から発生していることを確認することができた。これらの結果より、和楽池からは利用可能なエネルギーが発生しており、和楽池のメタンガスを利用することで地球温暖化の被害を低減することができると考える。

### 今後の展望

今後は和楽池に存在するエネルギーを活用するため、メタンガスの採取の自動化や、メタンガスをより長い時間の燃焼させる方法の確立を目標とする。採取の自動化については、池底を刺激し、かつ浮上してきたガスを回収する機構を実現させることが最重要点であり、ソフト・ハード両面から検討を重ねていきたい。メタンガスをより長い燃焼させるためには、生産量の管理(定期的に採取し過剰な生産を防ぐ)などをして回収する気体に含まれるメタンガスの量を増やすことが必要不可欠だと思うため、検討を重ねていきたい。また、今回の実験で明らかにできなかった、気温と気圧が回収したメタンガスの濃度にそれぞれの程度影響を与えるかについても検証していきたい。

### 引用・参考文献

- 別表2 生活環境の保全に関する環境基準 1 河川(2)湖沼 <https://www.env.go.jp/kijun/wt2-1-2.html> ※1
- 涌井久司・山中勤 「安定同位体組成からみた那須扇状地扇央部における地下水涵養源とその地域性」『地下水学会誌』第48巻第4号263~277(2006) ※2
- 公益財団法人 日本地下水学会ホームページ <http://www.jagh.jp/> ※3
- 木村義彰・梅津一孝・高畑英彦 「貯留式メタン発酵における温度依存性(I)一回分試験による発酵温度特性の比較」『農業施設』第28巻第4号209~216(1998) ※4
- 常田岳志・宮崎毅・溝口勝 「泥炭地湿原におけるメタンバブルの存在,挙動とその役割」『農業土木学会誌』第74巻第7号595~598(2006) ※5

### 謝辞

平成理研株式会社 様  
NPO法人 環境カウンセラー協会 佐々木 英二 様  
大田原理科クラブ 理事長 刑部 節 様  
調査の協力、助言をありがとうございました。

# 微生物燃料電池の電解質の違いによる起電力



栃木県立大田原高等学校 2年 13班  
遠山心太 益子晴成 木下晴斗 中林航大  
指導教官 加藤信行

## 背景、目的

日本では再生可能エネルギーの割合が18%と普及していない。そこで、再生可能エネルギーをより普及させたいと考え、微生物燃料電池がより有効的だと考えた。

## 研究手法

### 【準備するもの】

- ・カーボンプロス(3cm×3cm,2枚1セット)
- ・電解質  
(鶏糞一年、鶏糞半年、発酵飼料、ぼかし、土麹、池底)
- ・ニッケル線(10cm、15cm各1本ずつ1セット)
- ・ワニ口(線付きクリップ) ・テスター
- ・ペットボトルを切ったもの ・ペンチ
- ・デジタル温度計

### 【実験手順】

#### 1) 電解質の入手

アジア学院で電池に使う電解質を入手した。



#### 2) 実験装置の作成

- ①上半分を切り取ったペットボトルにカーボンプロス(写真1のニッケル線の長い方)を入れる。
- ②カーボンプロスが片方に寄らないように電解質を入れる。
- ③電解質が舞い上がり、濁らないように水を加える。
- ④カーボンプロス(写真1のニッケル線の短い方)を入れる。

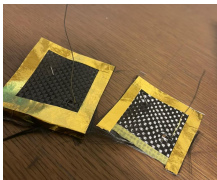


写真1「電極となるカーボンプロス」

#### 3) 測定実験

写真2,3のようにして約40日間12時にテスターで各電池の電圧、デジタル温度計で微生物燃料電池の電解質、温度計・湿度計で気温、湿度、を計り記録する。

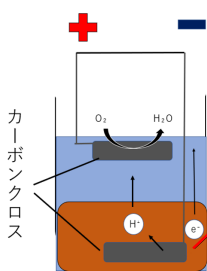


写真2「電解質毎の装置」

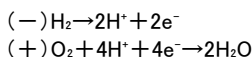


写真3「測定の様子」

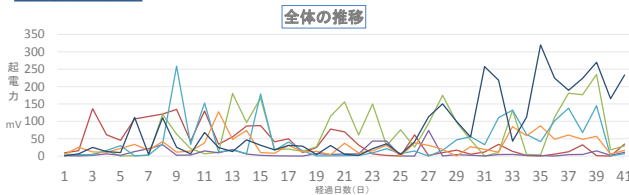
## 微生物燃料電池の仕組み



1. 微生物が有機物を分解する際に電子が発生する
2. マイナス極で回収した電子がプラス極に移動する際に発電する
3. プラス極に移動した水素イオンと酸素が反応して水になる



## 結果、考察



- ・「池底」の電圧が平均・最高ともに一番高かった。平均82.8mV、最高電圧320.0mV
- ・水が蒸発してしまうため水を足したが、そのときに電圧が高くなった。また、「池底」以外の電池は水が濁っていて、ポウフラも沸いていた。このことから、正極の上にある水は濁っていないほうがよいと推測できる。
- ・「池底」の電圧が後半に高くなったのは、他の電池の微生物が温度計を伝って移動した可能性がある。
- ・電解質の温度と電圧には関係が見られなかった。

	鶏糞一年	鶏糞半年	発酵飼料	ぼかし	土麹	池底
平均電圧 (mV)	42.4	66.0	9.2	44.9	30.9	82.8

## 結論、まとめ

計測したすべての電池で電流が流れることが確認できた。平均電圧は濁っていない「池底」が一番高く、電解質の温度と電圧には関係が見られなかった。

追実験では、微生物燃料電池の水をアジア学院で入手した液肥に代えたり、水の量を調節したりして、水の濁りと発電量の変化の関係を、明確にしていきたい。

また、今回の実験では接触不良があった可能性が高い。そのため、導線を被覆のあるエナメル線に変え、電極とホットボンドで固定または、はんだ付けをすることで、正確なデータを測りたい。

## 引用文献、参考文献

- ・ 微生物が燃料を作る微生物燃料電池！  
<http://www.mirai-kougaku.jp/laboratory/pages/181012.php>
- ・ 「泥の電池」～泥中の微生物と有機物を活用して発電～  
[http://www.mirai-kougaku.jp/explore/page/201120\\_02.php](http://www.mirai-kougaku.jp/explore/page/201120_02.php)

## 謝辞

- ・ 佐賀大学工学部化学部門 富永昌人 教授  
佐賀大学工学部化学部門 富永研究室 ([saga-u.ac.jp](http://saga-u.ac.jp))
- ・ 学校法人アジア学院アジア農村指導者養成専門学校  
ホーム - アジア学院 ([ari-edu.org](http://ari-edu.org))
- ・ 東京大学大学院新領域創成科学研究科 松田響生 院生  
研究に協力していただきありがとうございます。



# 栃木県北部が目指す理想的なエネルギー構成に迫る

栃木県立大田原高等学校 2年 32班  
八木沢貫太 沼尾俐玖 戸村結心 小林律輝  
指導教官 藤原和人

## 【研究背景】

環境問題について調査する中で、地元の県北地域の6市町(大田原市、矢板市、那須烏山市、那須塩原市、那珂川町、那須町)が**ゼロカーボンシティ宣言**\*をしていることを知り、各市町の政策や発電状況について調査したいと思った。また、来る2050年に向けて、県北地域が目指すべき電力構成について考えたいと思った。

\*ゼロカーボンシティ宣言:2050年までにゼロカーボン(実質排出量ゼロ)を目指すことを表明した自治体

## 【研究目的】

- ・栃木県北部の各発電方法を評価し、エネルギー構成を考案する。
- ・ゼロカーボンシティ宣言の認知度を向上させるために最も有効な方法を探る。

## 【研究手法】

- ・ゼロカーボンシティ宣言に賛同した県北6市町を訪問・調査する。
- ・県北6市町に設置されている発電施設を訪問・調査する。
- ・本校の生徒・職員、県北6市町にある高校の全生徒を対象に「ゼロカーボンシティ宣言」に関するアンケート調査。
- ・栃木県北部地域が目指すべき理想的なエネルギー構成を探るため、シミュレーションを実施する。

## 【訪問調査結果】

### 市役所

- 県北6市町全てで「ゼロカーボンシティ宣言」に関する具体的な対策はあまり実施されていない。
  - ・広報誌等での広報活動程度
  - ・地球温暖化対策で実施している対策の一部が該当。
  - ・資金・専門知識を持つ人材不足の影響で計画はあるが実施できていない。

### 発電所

- 畜産酪農研究センターのバイオマス発電所  
⇒**牛の糞尿**を発電に利用
- ホテルサンバレー那須のバイナリー発電所  
⇒**温泉の熱**を発電に利用
- 百村水力・新青木発電所  
⇒**農業用水路の落差**を発電に利用
- 矢板・那須烏山太陽光発電所  
⇒**豪雨災害対策**の目的で**ため池**が設置
- 那珂川バイオマス発電所  
⇒**木くずや廃材**を発電に利用  
⇒**「木の駅プロジェクト」**\*として

地域と協力・連携

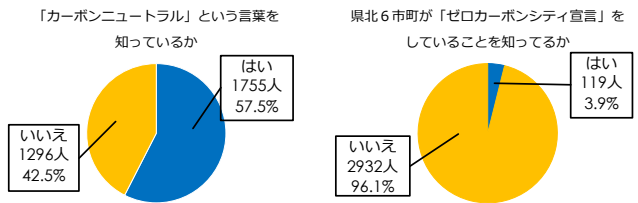
### \*木の駅プロジェクト:

山林に放置された間伐材などの林地残材を引き取り、地元の商店で利用できる地域通貨券を発行する取り組み。

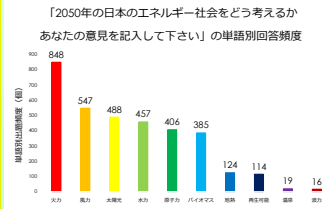


## 【アンケート結果】

実施日時:10月3日~10月28日までの25日間  
対象:6市町にある高校の全生徒 回答者数:3051人

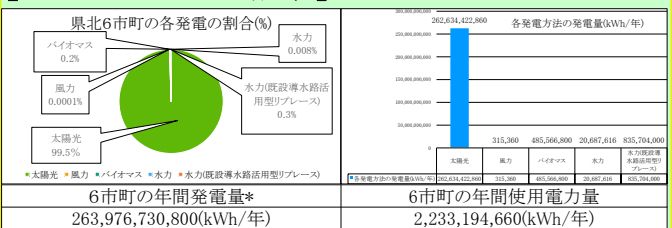


- ・カーボンニュートラルについて知っている生徒は半数を超える。
- ・県北6市町がゼロカーボンシティ宣言をしていることは認知されていない。



- ・原子力の割合が火力と比べ低い  
⇒福島第一原発の事故の影響が示唆
- ・再生可能エネルギーの割合が低い  
⇒認知度の向上が必要

## 【シミュレーション結果】



6市町の年間発電電力量\* 263,976,730,800(kWh/年)  
6市町の年間使用電力量 2,233,194,660(kWh/年)  
\*設備利用率が100%かつ再生可能エネルギーのみの場合。

⇒再生可能エネルギーを用いた発電方法だけで賄うことは可能である

	私たちが考える県北地域のエネルギー構成					
	太陽光	水力 (既設導水路活用型リプレース)	水力	バイオマス 糞尿 木質	風力	地熱 (温泉)
理想的な割合(%)	70%	17%	0.5%	10%	2.5%	0.001%

\*\*火力発電、原子力発電は含まない。県北地域に設置されている発電方法のみでシミュレーションを実施。

## 【まとめ】

- ・再生可能エネルギーだけで6市町の年間使用電力量を賄える。  
⇒エネルギーの地産地消ができる。
- ・県北6市町のカーボンニュートラル、ゼロカーボンシティを達成するための具体的な取り組みはまだ不十分。
- ・「ゼロカーボンシティ宣言」の認知度は低い。

## 【展望】

- ・「ゼロカーボンシティ宣言」の認知度を向上させるためのリーフレットを作成する。
- ・理想的なエネルギー構成について、火力・原子力発電を含めて再検討する。

## 【参考文献】

- ・『1-1-10』 主要国の一人あたりの電力消費量 - エネ百科』 <https://www.ene100.jp/zumen/1-1-10>
- ・『再生可能エネルギー 事業計画認定情報』 <https://www.fit-portal.go.jp/PublicInfo>
- ・『那珂川町で木の駅プロジェクト始動 間伐の残材引き取り地域通貨を発券【栃木県】 < ARCHIVES by FOREST BANK (sakura.ne.jp)』 [forestbank.sakura.ne.jp/?p=7078](https://forestbank.sakura.ne.jp/?p=7078)

## 【謝辞】

環境森林部気候変動対策課様、各市役所・町役場、ホテルサンバレー那須様、VENA ENERGY様、RENOVA様、株式会社トーン様、那須野が原土地改良区連合様、畜産酪農研究センター様、アンケートにご回答して下さいました皆様、研究にご協力いただき、ありがとうございました。

9 産業と技術革新の基盤をつくらう



# ブルーライトを低減させる身近な物質に関する研究

栃木県立大田原高等学校 2年43班  
大波蒼空 遠藤寛也 小沼歩夢 矢吹千陽  
指導教官 藤原和人

## 〇背景

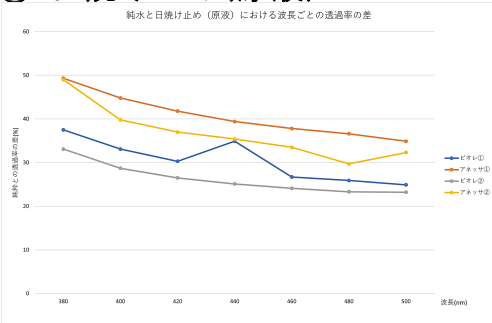
寝る前にスマートフォンを使用することにより、寝付きが悪くなった経験がある。調査の結果、ブルーライトが人間の睡眠に大きく影響を及ぼしていることが明らかとなった。そこで、日常生活でスマートフォンから受けるブルーライトの影響を低減させる物質を調査し、どの物質が有効であるかを明らかにしたいと考えた。

## 〇実験手法

ブルーライトと定義されている波長が380nm~500nmの範囲とそれに近い波長の様々な光を日焼け止めや絵具などに当て、それぞれの波長における透過率\*を測定する。透過率の測定には、本校にある紫外可視分光光度計「PD-3000UV」を用いる。試料と同時に純水の透過率を測定し、両者の透過率の差から傾向を見る。

\*透過率: 流体を光線が透過(通過)する割合

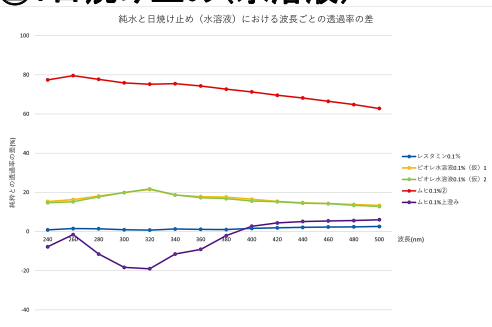
## 実験①: 日焼け止め(原液)



### <結果>

- どの試料も短い波長ほど、透過率の差が大きい。
- セルに試料を直接塗り複数回実験を実施。  
→試料の厚みの違いが原因で差が生じたのではないか。  
→試料を水溶液に溶かし、一定の濃度で測定を実施することで改善できるのではないか。

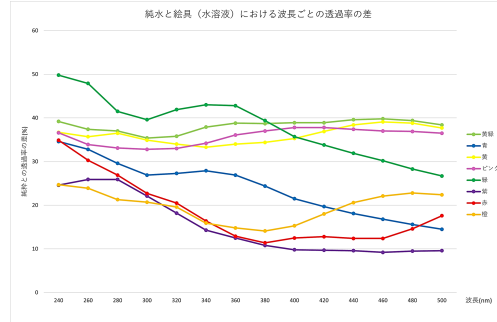
## 実験②: 日焼け止め(水溶液)



### <結果>

- 試料を水溶液にすることで誤差は低減した。
- 透過率のピークは試料により異なる。
- ムヒは純水に溶け切らず、また透過率の差も大きな変動はない。  
→時間において水溶液の上澄みで再度実験を実施すると、透過率が純水よりも高くなった。

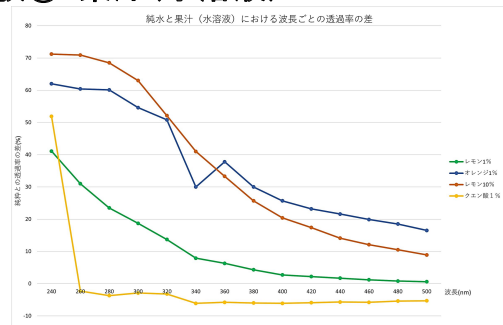
## 実験③: 絵具(水溶液)



### <結果>

- 赤系統の色はブルーライト付近の透過率の差が小さい。  
→ブルーライトを低減する効果はあまりない。
- 緑系統の色はブルーライト付近の透過率の差が大きい。  
→ブルーライトを低減する効果があると示唆される。
- ピンクは赤系統の色だがブルーライトの透過率の差が大きい。  
→ピンクの絵具の製造の際に緑系統の色を混ぜた可能性あり。

## 実験④: 果汁(水溶液)



### <結果>

- レモン、オレンジ共にブルーライト付近の透過率の差が大きい。  
→ブルーライトを低減する効果があると示唆される。
- クエン酸水溶液は260nm以降は水よりも透過率が高い。  
• 濃度が高くなるにつれ、全体的に透過率は低くなった。

## 〇考察

- レモン、オレンジにブルーライトを低減させる効果があると示唆されたのは、柑橘類に含まれるソラレン\*の影響であると推察される。  
\*ソラレン: 紫外線を吸収する作用がある物質
- レモン水溶液の濃度を高くすると透過率が高くなったのは、レモン果汁水溶液中のソラレンが増加したためだと推察される。
- 他の柑橘類にも同様の効果があると推察される。

## 〇今後の課題

- ソラレンが含まれている物質を中心に再度実験を実施し、ソラレンとブルーライトの関係性を明確にしたい。
- 他の絵具の水溶液を用いて再度実験を実施し、ピンクの絵具の水溶液と緑系統の色との関連を明確にしたい。

〇謝辞 本研究にご助言いただきました、宇都宮大学基盤工学部物質環境化学コース 稲川有徳先生に心より感謝申し上げます。

## 〇参考・引用文献

- 1)「ブルーライト研究会」 <http://blue-light.biz/>
- 2)「日立ハイテクサイエンス『分光光度計基礎講座』」 [www.hitachi-hightech.com/hhs/products/tech/ana/uv/basic/](http://www.hitachi-hightech.com/hhs/products/tech/ana/uv/basic/)
- 3)PD-3000UV - 株式会社アペル | 医療機器・理化学機器の開発と製造 [http://www.apel.co.jp/products/analytical\\_equipment/pd-3000uv.html](http://www.apel.co.jp/products/analytical_equipment/pd-3000uv.html)

## 紫塚キャリア探訪会

執筆者：杉森 豪

今年度も首都圏紫塚同窓東京会をはじめ、県庁紫塚同窓会など多くのOBの方々にご尽力いただき、「令和5年度紫塚キャリア探訪会」を実施することができた。本事業は、キャリア教育の一環として、日本全国で活躍されている本校OBと対面・オンラインで交流する事で、各職種を知ると共に、働くことの喜びや誇り、大学や学部選択に関する助言など学校では学ぶことができない数々のことを先輩たちから直に学び、働くことへの関心を高めるとともに各職種に関する理解を深め、今後の生き方や進路計画を考える契機とする進路行事である。

今年度は、令和5年7月18日(火)、全学年全生徒を対象に対面式・Zoom上にて実施した。高29回から高58回まで幅広い年齢、職種の方々7名に講師としてご参加いただき、生徒は自分たちが興味を持った2つの会場を訪問して、諸先輩方から話を聞くという形式で実施した。OBの方々は、仕事の内容や、人材として求められること、先輩たちの高校時代の体験談などを熱心に話してくださり、在校生にとって貴重な時間となった。生徒のアンケート結果からは、「キャリア探訪会を通して、知らなかった職業を知ることができ、進路選択の視野が広がった。」との声が多く寄せられ、生徒にとって刺激的な一日になった。

ご参加いただいた講師の方々、誠にありがとうございました。

## 大高外部連携人材バンク運用開始について

執筆者：加藤 信行

本年度より下記のとおり『大高外部連携人材バンク』の運用を開始いたしました。本校同窓会の方々にも本事業の趣旨、目的をご理解いただき、お力添えをお願いできればと考えております。

なお、ご入力いただいた個人情報に関しましては、本校の教育活動においてのみといたします。また、ご登録いただいた方を対象に本校のSSH事業の情報紙「大高SSH通信」をメールにて定期配信(希望制)させていただきます。

### 1. 趣旨

本校SSH事業は本年度でI期目最終年度(5年目)となり、現在まで大学・研究施設等の外部機関及び本校同窓会など多くの専門家から指導・助言を頂きながら各種活動を実施してきた。今後、SSH

II期目採択を果たし、SSH事業を深化拡充させていくためにも、I期目以上に外部連携を促進させたいと考えている。本校にとって貴重な人材を関係部署が協力し、外部連携人材バンクとして一元管理することで情報の共有化と事業の継続化を図りたいと考えている。

### 2. 目的

上記の趣旨を踏まえ、主に3つの目的で外部連携人材バンクを作成する。

- (1) 課題研究活動における指導・助言等に関する人材バンク
- (2) サイエンス特別講座をはじめ、各種講演会における講師選定
- (3) SSH事業を経験した卒業生の動向把握

### 3. 運用方法

右記のQRコードより「Microsoft Forms」から登録(入力)をしていただく。



※後日、本校HPにも外部連携入力用のページを作成予定。

### 4. 入力内容

- (1) 必須
  - ①氏名、②よみがな、③連絡先(メールアドレス)、④所属、⑤役職・肩書き等、⑥専門分野 ※選択式、⑦専門分野に関連したキーワード(5つまで) ⑧連携可能事業 ※選択式(選択肢：課題研究指導・助言、各種講義、施設見学、人材紹介、その他) ⑨本校SSH事業に関する定期配信の希望有無
- (2) 任意
  - ①本校卒業の有無→有の場合：卒業年度・卒業回

### 5. 担当

SSH部副部長 加藤 信行(高58回)

内科・小児科  
**鎌田 浅香 医院**

鎌田美樹雄(高24回)  
〒324-0043 栃木県大田原市浅香 3-3-9  
TEL 0287-22-2703

# 令和4年度卒業生 進路状況報告

## 1 令和4年度卒業生 大学入試合格状況

- (1) 大学入学共通テスト受験者 197名 (昨年230名)
- (2) 新卒国公立大学合格者最終延べ数(前・中・後期、独立、推薦) **116名 (昨年144名)**
- (3) 過年度国公立大学合格者最終延べ数(前・中・後期、独立、推薦) **1名 (昨年5名)**
- (4) 新卒・過年度国公立大学合格者最終延べ数(前・中・後期、独立、推薦) **117名 (昨年149名)**
- (5) 主要大学の合格者数(卒業年度)

( )内は過年度卒の数

国公立大	4年	3年	2年	1年	30年	私立大	4年	3年	2年	1年	30年
東京	0	0	3	2	0	早稲田	3	2	6	2 (1)	2
京都	0	0	0	0	0	慶應義塾	2	0 (4)	5	2 (1)	3
東京工業	1	0	0	0 (1)	2	上智	1	1	0	0 (1)	0
一橋	0	0	0	0	0	青山学院	2	3	7	1 (1)	3
大阪	0	0	0	0	0	学習院	0	1	1	0	2
名古屋	0	1	0	0	0	中央	14	16	11 (2)	9	11
東北	6	3	7	7	3 (1)	東京理科	3	7	11	11 (2)	3
北海道	0	0	1	0	0	法政	5 (1)	12 (1)	20 (1)	11 (1)	8
神戸	0	0	0	0	0	明治	7	10 (2)	22 (1)	4 (1)	10
東京外国語	1	0	0	0	3	立教	5	3	4	2 (1)	1
筑波	2	0	4	2	2	関西	0	0	0	1	1
千葉	4	3	5	0	3	関西学院	2	2 (3)	1	1	2
埼玉	3	6	5	8	5	同志社	1	0	2	1	0
新潟	10	23	9 (1)	11	6 (1)	立命館	3	6 (1)	6 (1)	1	0
金沢	0	2	2	0	0	駒澤	1	11	10	10	9
横浜国立	0	0	1	2 (1)	2	芝浦工業	12	28 (1)	14	18	11
東京学芸	0	0	2	1	0	専修	7	3 (2)	11 (1)	10	6
東京農工	2	0 (1)	0	1	0	東海	10	21	18	14	15
電気通信	2	1	0	1	1	東洋	34 (1)	14 (3)	6	2	14
静岡	6	6	3	2 (1)	0 (2)	日本	47 (1)	42 (3)	33 (3)	32	43
山形	10	14 (2)	5	12 (1)	10 (1)	神奈川	2	7	10	10	9
茨城	2	2	2	1	6	国際医療福祉	16	14 (1)	17	13	11
宇都宮	18	19	19	21	24	獨協医科	3	0	0	0	0 (1)
東京都立	0	0	2	0	1	自治医科	1	0	0	0	0 (1)
その他	49 (1)	64 (2)	40	51	41	その他	156 (1)	233 (7)	175 (1)	165	175
現役前期合格者	97 (含総)	128 (含総)	92 (含AO)	110 (含AO)	90 (含AO)	現役私立大合格者	333	436	390	320	339
現役国公立合格者	116	144	110	122	109	GMARCH・関関同立以上の合格者	48	63	96	46	46

## 2 専門学校 3名 (進学者数)

## 3 就職 0名

### 藤田山 圓光寺

住職 神島仁誓 (高24回)  
副住職 神島一誓 (高66回)

〒329-2755  
那須塩原市西原町 4-5  
TEL 0287-36-0476  
FAX 0287-36-2965

### 株式会社 マキ厨房設備

代表取締役 榎 徳和 (高24回)

栃木県大田原市山の手 2-3-13  
TEL 0287-22-2486

きれいな写真は、

### ミハル写真館

〒324-0051  
大田原市山の手 2-6-33  
TEL 0287-22-2566

# 特別活動の記録

令和 4 (2022) 年 10 月～令和 5 (2023) 年 9 月

## 【全国大会】

### ○山岳部

- ・令和 5 年度全国高等学校総合体育登山大会第 67 回全国高等学校登山大会

A 隊 (男子団体)	31 位	3 年	高梨 仁孝
		3 年	平野 雅虎
		3 年	小林 秋翔
		2 年	高根沢英大

### ○SSC (数学班)

- ・第 4 回栃木県高等学校文化連盟自然科学部会研究発表会 (地学部門) 最優秀賞

2 年 植月 優心

### ○水泳部

- ・第 77 回 国民体育大会水泳競技大会

少年 A 男子 4 × 100m メドレーリレー	第 8 位	3 年	岩澤 裕
少年 B 男子 100m バタフライ	第 7 位	1 年	阿部 匠真

### ○スキー部

- ・2023 栃木県ユーススキー選手権大会

SL	1 位	1 年	高根沢 英大
GSL	2 位	1 年	高根沢 英大

## 【関東大会】

### ○陸上競技

- ・令和 5 年度関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会

男子 800m	1 年	石川 悠斗
男子 1500m	1 年	石川 悠斗
男子 4 × 400mR	2 年	畠田 隼佑
	2 年	川口 柊斗
	2 年	糸井駿太郎
	2 年	溝口 蒼太

- ・第 64 回栃木県高等学校総合体育大会陸上競技

男子走幅跳び	第 7 位	2 年	渋谷 勇次
男子 4 × 100mR	第 7 位	2 年	糸井駿太郎
		2 年	渋谷 勇次
男子 4 × 400mR	第 4 位	2 年	畠田 隼佑
		2 年	川口 柊斗
		2 年	溝口 蒼太
男子三段跳び	第 5 位	2 年	渋谷 勇次
男子円盤投げ	第 6 位	2 年	猪瀬 照英

- ・令和 5 年度関東高等学校陸上競技大会

男子 4 × 400mR	出場	2 年	畠田 隼佑
--------------	----	-----	-------

2 年	川口 柊斗		
2 年	溝口 蒼太		
男子円盤投げ	出場	2 年	猪瀬 照英
男子三段跳び	出場	2 年	渋谷 勇次

- ・第 96 回関東陸上競技選手権大会

男子円盤投げ	棄権	2 年	猪瀬 照英
男子 5000m	出場	3 年	藤田 凰雅

- ・令和 5 年度関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会

男子 800m	1 年	石川 悠斗
男子 1500m	1 年	石川 悠斗
男子 4 × 400mR	2 年	畠田 隼佑
	2 年	川口 柊斗
	2 年	糸井駿太郎
	2 年	溝口 蒼太

### ○ソフトテニス部

- ・第 74 回関東高等学校ソフトテニス選手権大会 兼 第 64 回関東高等学校ソフトテニス団体選手権大会

男子個人	出場	3 年	横山 晴也
男子個人	出場	3 年	仁科 結斗

### ○相撲

- ・第 71 回関東高等学校相撲大会

個人戦 -80kg 級	出場	3 年	荒井 大翔
個人戦 -70kg 級	出場	2 年	高久 朔哉
個人戦 -70kg 級	出場	2 年	吉澤 和喜
個人戦 -70kg 級	第 5 位	1 年	伊藤玲雄斗
団体戦	出場	3 年	荒井 大翔
		2 年	高久 朔哉
		2 年	吉澤 和喜
		1 年	伊藤玲雄斗

### ○水泳部

- ・令和 5 年度 関東高等学校水泳競技大会

男子 100m バタフライ	2 年	阿部 匠真
男子 200m バタフライ	2 年	阿部 匠真
男子 100m 背泳ぎ	3 年	岩本 幸大
男子 200m 背泳ぎ	3 年	岩本 幸大
男子 4 × 100m メドレーリレー		

3 年 岩本 幸大

2 年 阿部 匠真

1 年 植木 大智

3 年 相馬 仁

男子 200m 平泳ぎ 1 年 植木 大智

### ○吹奏楽部

- ・第 24 回東関東吹奏楽選抜吹奏楽大会 金賞

## 【県大会】

### ○囲碁・将棋部

- ・第 59 回全国高等学校将棋選手権大会栃木県予選



団体戦 準優勝 2年 岸本 京也  
 3年 大石 直樹  
 3年 磯 孝成

・第59回全国高等学校将棋選手権大会栃木県予選  
 個人戦 第3位 2年 岸本 京也

○陸上競技

・第64回栃木県高等学校総合体育大会陸上競技  
 男子400mH 第7位 2年 鷹栖 興翼  
 男子4×100mR 第7位 3年 今井 優太  
 3年 齋藤 大豊  
 男子三段跳び 第2位 3年 齊藤 颯  
 男子800m 第7位 3年 荒井 大和  
 男子4×400mR 第4位 3年 岡本 元汰

・令和5年度関東高等学校陸上競技大会  
 男子4×400mR 3年 岡本 元汰

・令和5年度関東高等学校陸上競技大会  
 男子三段跳び 3年 齊藤 颯

・第94回栃木県陸上競技選手権大会  
 男子円盤投げ 第6位 2年 猪瀬 照英

・第63回栃木県高等学校陸上競技新人大会  
 男子100m 第5位 2年 糸井駿太郎  
 男子800m 第7位 1年 石川 悠斗  
 男子1500m 第8位 1年 石川 悠斗  
 男子110mH 第6位 2年 鷹栖 興翼  
 男子4×100mR 第4位 2年 岡 悠真  
 2年 糸井駿太郎  
 2年 溝口 蒼太  
 2年 川口 柊斗  
 男子4×400mR 第2位 2年 畠田 隼佑  
 2年 川口 柊斗  
 2年 糸井駿太郎  
 2年 溝口 蒼太  
 男子円盤投げ 第7位 2年 清水 尚  
 男子やり投げ 第4位 2年 清水 尚

○相撲

・第71回関東高等学校相撲大会 県予選  
 個人戦 -80kg級 準優勝 3年 荒井 大翔  
 個人戦 -70kg級 第3位 2年 高久 朔哉  
 個人戦 -70kg級 優勝 2年 吉澤 和喜  
 個人戦 -70kg級 準優勝 1年 伊藤玲雄斗  
 団体戦 第3位 3年 荒井 大翔  
 2年 高久 朔哉  
 2年 吉澤 和喜  
 1年 伊藤玲雄斗

・令和4年度栃木県高等学校新人相撲大会  
 男子団体 第3位 2年 荒井 大翔  
 個人軽量級 準優勝 2年 荒井 大翔  
 第3位 1年 高久 朔哉

○スポーツチャンバラ部

・第24回栃木県スポーツチャンバラ選手権大会  
 ビギナー部門 第3位 1年 高久 尚路  
 第4位 1年 間庭 大優  
 長剣フリー 第4位 1年 間庭 大優  
 長剣両手 第2位 2年 藤田 理央  
 第3位 3年 永井 駿斗  
 第4位 1年 高久 尚路  
 団体戦 第1位 2年 津田 煌典  
 1年 桃井 陸  
 第2位 1年 高久 尚路

○水泳部

・令和5年度第64回栃木県高等学校総合体育大会  
 水泳競技大会

男子100m バタフライ 第1位  
 2年 阿部 匠真  
 男子200m バタフライ 第3位  
 2年 阿部 匠真  
 男子100m 背泳ぎ 第4位 3年 岩本 幸大  
 男子200m 背泳ぎ 第4位 3年 岩本 幸大  
 男子4×100m メドレーリレー 第4位  
 3年 岩本 幸大  
 2年 阿部 匠真  
 1年 植木 大智  
 3年 相馬 仁  
 男子100m 平泳ぎ 第8位 1年 植木 大智  
 男子200m 平泳ぎ 第6位 1年 植木 大智  
 男子4×100m フリーリレー 第6位  
 3年 相馬 仁  
 3年 福島 由都  
 3年 岩本 幸大  
 2年 人見 豪嗣  
 男子200m 平泳ぎ 第8位 2年 人見 豪嗣  
 男子400m 個人メドレー 第8位  
 1年 神林 崇太

・令和5年度第74回関東高等学校水泳競技大会栃木県予選会

男子100m バタフライ 第1位  
 2年 阿部 匠真  
 男子200m バタフライ 第3位  
 2年 阿部 匠真  
 男子100m 背泳ぎ 第3位  
 3年 岩本 幸大  
 男子200m 背泳ぎ 第4位  
 3年 岩本 幸大  
 男子4×100m メドレーリレー 第2位  
 3年 岩本 幸大  
 2年 阿部 匠真  
 1年 植木 大智  
 3年 相馬 仁

男子 200m 平泳ぎ 第 8 位

1 年 植木 大智

男子 4 × 200m フリーリレー 第 7 位

3 年 福島 由都

1 年 神林 崇太

1 年 安達 緋色

1 年 仲山 暁平

○合唱部

・第 105 回全国高等学校野球選手権記念栃木大会  
「独唱者オーディション」代表出演者選出（栄冠  
は君に輝く） 3 年 小泉 謙晶

・第 45 回栃木県学生音楽コンクール  
本選会声楽部門第 1 位 2 年 小泉 謙晶

○吹奏楽

・第 65 回栃木県吹奏楽コンクール  
高等学校 B 部門金賞

○剣道部

・令和 5 年度栃高体連北部支部総合体育大会剣道大会  
男子個人 優勝 1 年 長井 一樹

○ソフトテニス部

・令和 4 年度栃木県高等学校ソフトテニス新人大会  
男子団体 第 3 位 2 年 横山 晴也

公益財団法人紫塚奨学団報告

奨学団係 瀬尾 明久

本紫塚奨学団は、平成 26 年 4 月 1 日付けで、公益財団法人紫塚奨学団として認可されました。これまで長きにわたり当奨学団の発展にご尽力いただきました多くの方々に、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。今後も役員一同、更なる財団の発展を目指してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、当奨学団は大正 7 年、多数の同窓生から寄付された財産 1,850 円を基金として創設されました。事業の内容は、奨学資金の貸与と給付、優良生徒の顕彰であり、基本財産が生み出す利子を主な事業資金とするものです。基本財産の充実については、創設後からの篤志寄付に加えて、昭和 57 年度に迎えた学校創立 80 周年記念事業の主たる事業として取り上げられ、同窓会の熱心なご協力をいただき飛躍的に増額されました。その後も同窓会をはじめ多数の同窓生からのご寄付をいただいております。

特に平成 30 年より一括 1,000 万円以上のご寄付は奨学金に寄付者の名前を冠することといたしております。

公益財団法人となりまして、今後は更なる事業の充実を視野に入れ、将来、社会に有益な人材の育成に力を入れていく所存であります。ご趣旨に賛同される方はご協力のほど宜しくお願いいたします。

同窓生の皆様には、従来より奨学団へのご支援をいただいておりますが、今後ともなお一層のご理解とご支援をいただければ幸いです。

**西田整形外科医院**  
 整形外科・リハビリテーション科  
 整形外科専門医 院長  
 西田三郎（高 30 回）



〒324-0053  
 大田原市元町 1-9-18  
 大田原女子高校そば  
 TEL 0287-20-3100

タイル工事・石工事・リフォーム工事



**ハシモ株式会社**  
 HASIMO

代表取締役社長 橋本 徹（高 32 回）

荒牧 量（高 32 回） 山崎 洋（高 33 回）  
 橋本 悟（高 41 回） 渡辺 毅（高 45 回）

本 社／大田原市南金丸 2000 TEL 0287-24-0010（代）  
 東京営業所／北区赤羽台 東北出張所／仙台市青葉区  
<http://www.hasimo.co.jp>

医療法人 博友会



**原眼科医院**  
 HARA EYE CLINIC

院 長 原 裕（高 20 回）

〒324-0042 大田原市末広 1-5-27  
 (JA なすの大田原ヨコ)  
 TEL 0287-24-0011

**増 淵 忠 行**  
 （高 16 回）

大田原市若草 1-114  
 TEL 0287-24-0287

乾燥・塩漬・酢漬唐辛子、葉唐辛子佃煮製造



**YOSHIOKA**  
 吉岡食品工業株式会社

吉岡 博美（高 20 回）  
 宍倉 秀一（高 47 回）  
 池田 暁洋（高 51 回）

本 社 〒324-0051  
 栃木県大田原市山の手 2-16-10  
 TEL 0287-23-5555 FAX 0287-23-5557

**吉成歯科医院**

吉成 慶 司（高 23 回）

〒324-0234  
 大田原市前田 145  
 TEL 0287-54-2600

◆公益財団法人紫塚奨学団役員◆

- 理事 池嶋 英哲 君島 芳一 神島 仁誓  
齋藤 良則 三森 謙次 藤原 和美  
村山 二郎 手塚 英雄 瀬尾 明久  
(9名)
- 評議員 吉岡 博美 佐藤 貴 菅谷 正男  
大貫 晋 印南 洋之 鈴木 隆  
見川 泰岳 加藤 正樹 佐川 浩一  
津久井秀一 猪瀬 清隆 月井 祐二  
田代 哲郎 (13名)
- 監事 荻原 伸夫 池田 秀敏 (2名)

◆奨学団の口座◆

○郵便局振替口座 口座番号 00350 - 4 - 11356  
口座名 公益財団法人紫塚奨学団

◆お問い合わせ先◆

○係教諭 瀬尾 明久 0287 - 22 - 2042 (大高)

◆奨学団ホームページ◆

<https://www.murasaki-shougakudan.com/>



橋本忠明様より合計101万円のご寄付をいただき、令和5年6月、(株)橋本測量にて増淵前理事長より感謝状を贈呈。

◆公益財団法人 紫塚奨学団◆

令和4年度事業報告

1 事業の状況

- (1)奨学金の貸与 大学生 2名  
月額 30,000円×12ヶ月×修業年限
- (2)奨学金の給付 大学生 3名  
一括 400,000円
- (3)奨学団賞授与
  - ①顕彰者 池田 康成(いけだ こうせい)  
賞状と記念品(懐中金時計)を授与
  - ②3ヶ年皆勤者  
67名に対して記念品(ネクタイピン)を授与

2 寄付金に関する事項

(令和4年4月1日～令和5年3月31日まで)

・橋本 忠明 様 (高14回)	800,000円
・平山 亮二 様 (高17回、前理事)	100,000円
・よしみ会 様 (高22回)	53,804円
・青木 勲 様 (高9回)	1,200,000円
・野田 征行 様 (高14回)	1,000,000円
・二ノ宮英寿 様 (高16回)	300,000円
・増淵 忠行 様 (高16回、理事長)	150,000円
・令和4年度卒業生	197,000円
・植木 淳 様 (高33回、前校長)	100,000円
合 計	3,900,804円

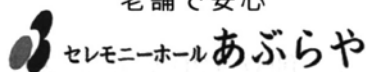
・よしみ会様(高22回) 寄付者一覧(敬称略)

- 飯塚 基、五十嵐 透、和泉 卓哉、磯 勝彦
- 磯元 一郎、岩畑 謙一、岩本 豪、植木 武
- 宇佐見秀夫、薄井 隆男、薄井 光、落合 昭二
- 笠原 秀夫、片柳 洋、加藤 英昭、金沢 守
- 栗田 政好、小曾戸和彦、小滝 直人、齋藤 章雄
- 佐藤 久、鈴木 繁、関 幸一、高瀬 正則
- 高野 昌之、高松 勝、戸上 一美、中里光公也
- 永山 林、塗茂 哲治、野崎 浩司、野田 幸男
- 長谷沢雄市、伴 英夫、平山 弘之、深澤 道昭
- 文村 信義、益子 和紀、室井 秀、森島 堅二
- 八木沢富吉、屋代 祐、吉成 仁見、吉成 良弘
- 渡辺 喜美、和地 茂

合計50万円以上のご寄付をいただいた方々に感謝状を贈呈させていただいております。

野田征行様におかれましてはご寄付をいただいた翌年の春にご逝去なさいましたので、告別式にて感謝状を飾っていただきました。謹んでお悔やみを申し上げますと共に、ご冥福をお祈りいたします。

老舗で安心



有限会社 油屋商店

代表取締役 吉川 秀之(高34回)  
取締役会長 吉川 恵造(高7回)  
取締役 吉川 翔平(高61回)

〒324-0047 栃木県大田原市美原1-3523-5  
TEL 0287-24-2411 FAX 0287-24-2412  
URL <http://www.ce-aburaya.co.jp/>

中国料理 応竜

田代 誠一(高18回)  
田代 尚之(高47回)

栃木県大田原市城山2-2-12  
TEL 0287-22-2801(代)  
FAX 0287-23-8383

季節の上生菓子

伏見屋菓子店

伏見 功一(商1回)  
伏見 雅志(商30回)

フシミヤ  
TEL 0287-23-2438  
フシミヤ  
FAX 0287-24-2438

# お知らせ

## ◆◆◆大切なお知らせ！！◆◆◆

### 会報郵送について

- これまで会報誌上や総会等でお知らせしてきましたように、同窓会の予算支出のなかで大きな比重を占めているのが、会報の郵送費です。その結果、次のような提案がなされて進めていくことになりました。
- 紙ベースの会報の郵送費を抑えるために、紙ベースの会報を従来通り希望するのか、あるいはホームページで閲覧するので紙ベースの会報は不要かを、この会報第 48 号を送付するに際して伺います。
- ついては、紙ベースの会報を従来通り希望する方は、同封した葉書に必要事項を記載してご返送ください。なお、切手代はお支払いください。
- 紙ベースの会報が不要な方は、葉書のご返送は必要ありません。
- したがって、今後の会報については、葉書で紙ベースの会報を希望された方のみを送付することになります。
- また第 39～47 号に同封された葉書をすでに本部宛に発送された方は、本部で承知しておりますので、今回同封の葉書を再返送される必要はありません。
- 以上、お手数をおかけしますが、よろしくお取り扱い下さい。

## ◆◆◆母校支援のご寄付を！◆◆◆

- 総会や常任理事会でも度々とりあげておりますように、卒業生のさらなる減少に伴いまして同窓会入会費も少なくなり、入会費がかなりのウェイトを占めている同窓会一般会計の収入が減少しています。このため従来のような母校支援が十分に行えない状況であります。
- 同窓会員諸氏のご援助をいただいて、より一層の母校支援に役立てたいと思います。ご協力くださる方は、下記口座まで振り込みいただければと思います。
- 郵便振込  
口座名：栃木県立大田原高等学校内 紫塚同窓会  
口座記号番号：00340 - 0 - 1748  
※お振り込みいただく際には  
①ご芳名②卒業年次③電話番号をご記載下さい。

### 編集後記

- 今年度は、新型コロナウイルス感染症も第 5 類に引き下げられ、多くの行事がコロナ前と同様に開催されています。通常の学校の活動を紹介できたことは何よりもうれしいことです。今年度も多くの皆様のご協力により、会報第 48 号の発行にこぎつけました。心から感謝申し上げます。

## 特別年度協力金にご協力をいただいた方【令和4～5年度】

### 総会（令和5年6月3日）

NO	氏名	卒回	金額
1	金子 哲也	9	2,000
2	桑 原裕	10	2,000
3	蜂巢 貞美	11	2,000
4	増淵 忠行	16	10,000
5	植田 勝	16	2,000
6	千保 次男	16	2,000
7	池嶋 英哲	20	2,000
8	春原正三郎	20	2,000
9	今泉 薫	20	2,000
10	菅谷 正男	21	2,000
11	伊藤 和夫	21	2,000
12	和泉 卓哉	22	2,000
13	齋藤 章雄	22	2,000
14	大貫 雄二	23	2,000
15	榎 徳和	24	2,000
16	神島 仁誓	24	2,000
17	大橋 保	29	2,000
18	藤原 和美	30	2,000
19	後藤 伸一	32	2,000
20	渡邊 康成	34	2,000
21	渡辺 和栄	35	2,000
22	大木 聡	43	2,000
23	田島 真義	45	2,000
24	高田 正義	51	2,000
25	長嶋 大輔	53	2,000

### 一般

NO	氏名	卒回	金額
1	磯 秀夫	2	50,000
2	増淵 忠行	16	10,000
3	池嶋 英哲	20	10,000
4	前原 秀光	47	10,000
5	前原 邦光	50	10,000

### 十年会（令和5年8月19日）

NO	氏名	卒回	金額
1	飯田 徑夫 恩師		2,000
2	鈴木 長生 恩師		2,000
3	小高 一紘	15	2,000
4	村上富美夫	15	2,000
5	池嶋 英哲	20	2,000
6	菅谷 正男	21	2,000
7	伊藤 和夫	21	2,000
8	和泉 卓哉	22	2,000
9	榎 徳和	24	2,000
10	神島 仁誓	24	2,000
11	三森 秀夫	25	2,000
12	蓮実 彰	25	2,000
13	松本 光正	25	2,000
14	久島美智雄	25	2,000
15	増淵 修一	25	2,000
16	黒崎 博孝	25	10,000
17	今井 守夫	25	2,000
18	大橋 保	29	2,000
19	藤原 和美	30	2,000
20	後藤 伸一	32	2,000
21	岡田 泰明	35	2,000
22	伴 尚文	35	2,000
23	花塚 和伸	35	2,000
24	吉田 智範	35	2,000
25	大木 聡	43	2,000
26	伊藤 秀行	45	2,000
27	郡司 大志	45	2,000
28	細井 博幸	45	2,000

## ☆紫塚同総会 ホームページ☆

- URL <http://www.muradou.sakura.ne.jp>
- お問い合わせご意見等は E メールにて [daiko1@mudou.sakura.ne.jp](mailto:daiko1@mudou.sakura.ne.jp)
- 同窓会報を第 34 号から掲載しています
- 卒業年度一覧を掲載いたしました



## ☆紫塚同総会 facebook☆

- 紫塚同窓会 HP からリンクできます。
- どなたでも発信し、どなたでも受信できるのが facebook の利点です。
- 同窓会の広報担当を中心として、これまで以上にタイムリーに発信してまいりますので、皆さまのご協力をお願いします。

